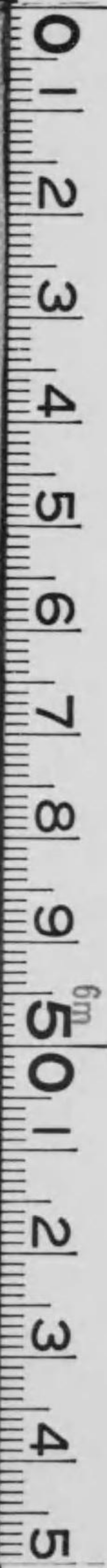


29/3  
6



始





丁抹の農村と其の教育

ハロルド・ダブリュ・フォート博士原著

横濱高等工業學校教授  
文部省囑託マスター・オブ・アーツ 水野常吉抄譯

東京民友社 發行





丁抹の農村と其の教育

ハロルド・ダブリュー・フォート博士原著  
横濱高等工業学校教授 水野常吉抄譯  
文部省嘱託マスタール・オブ・アーツ

東京民友社發行

大正  
13. 10. 22  
内交







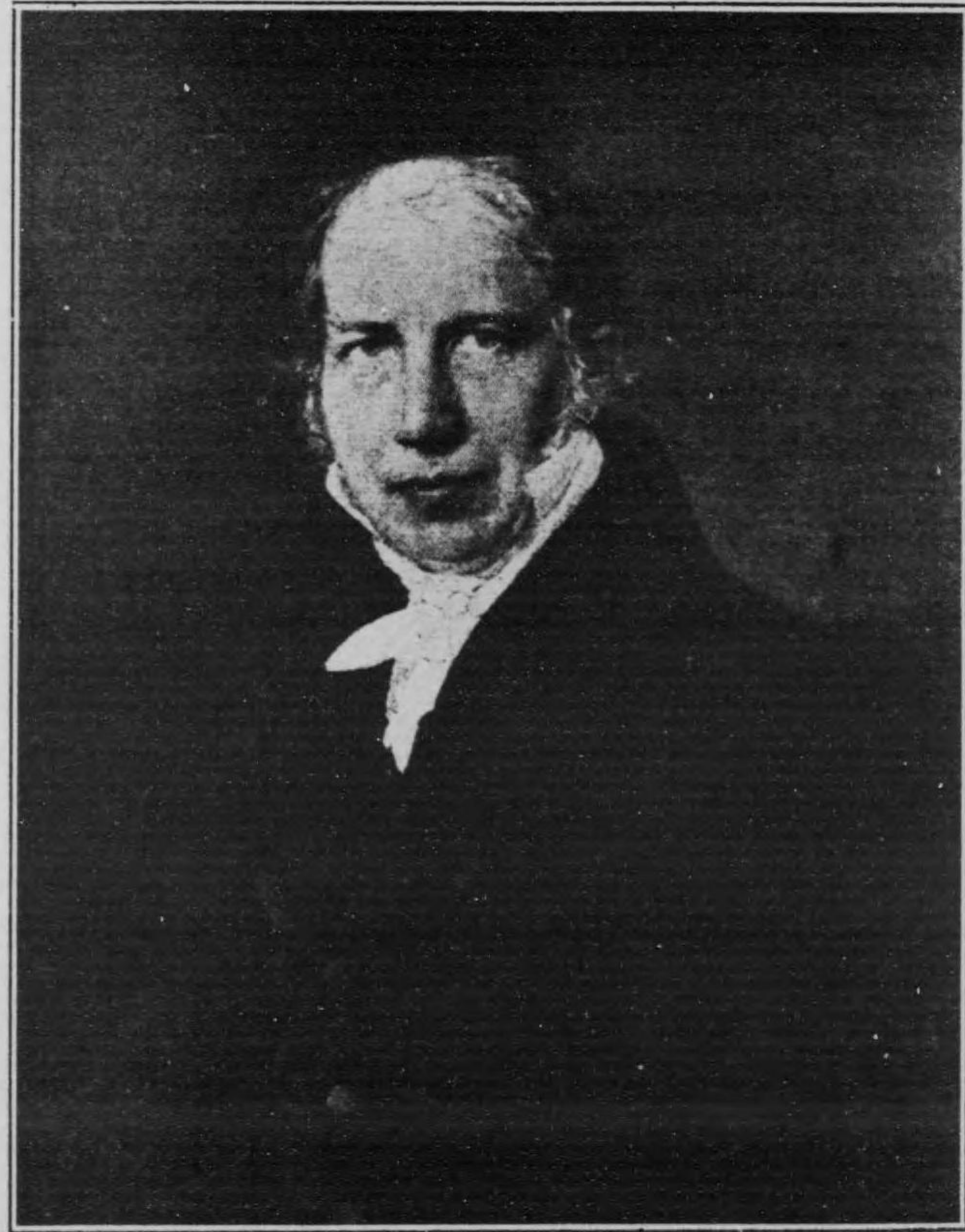
士博ト一オフの近最



ゲルンドウイツヒの期待せる國民高等學校の目的

「祖國の自然と、歴史と、其の現代に於ける實生活と、  
要求とを中心とし、學校は此の中心に立ちて實世間の  
諸方面と交渉し、又之を中心として民衆の力を集中統  
一すべきものなり」





北歐の偉人、高麗國、學堂創立者、吹鼓者  
 ヒットウドンルグ・スエ・フエ・ヌエ・ブッヨシビ

「すゝまのたや」  
 諸君前と交際し、又之を中心とし、其の中心に立す、實世間の  
 要求を中心とし、專断お其の中心に立す、實世間の  
 「兩國の」幾と、盟契と、其の底分り、其の實世間の

スエ・フエ・ヌエ・ブッヨシビの限りける、其の實世間の



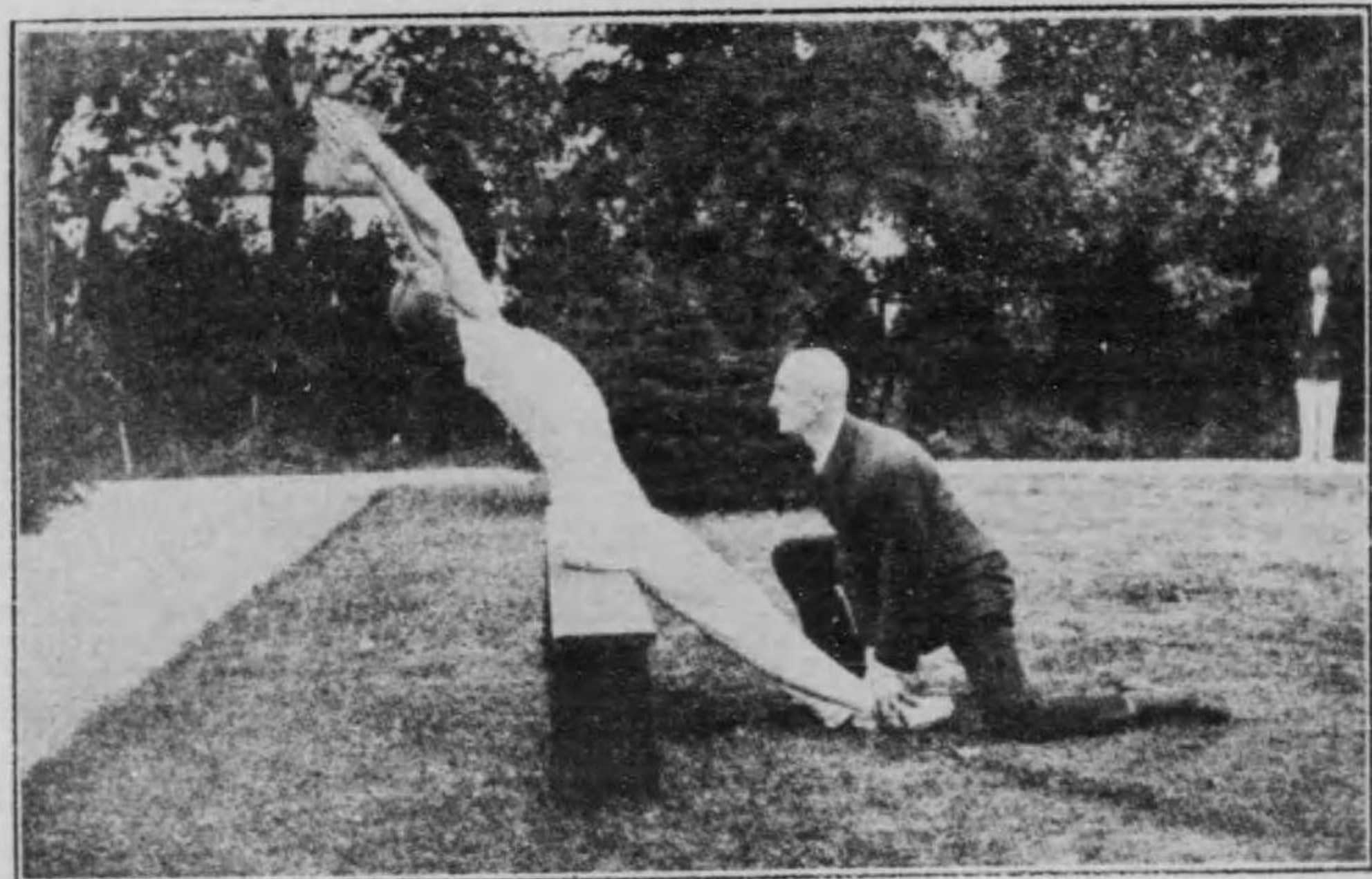


校學等高民國ブコシアの大最舊最

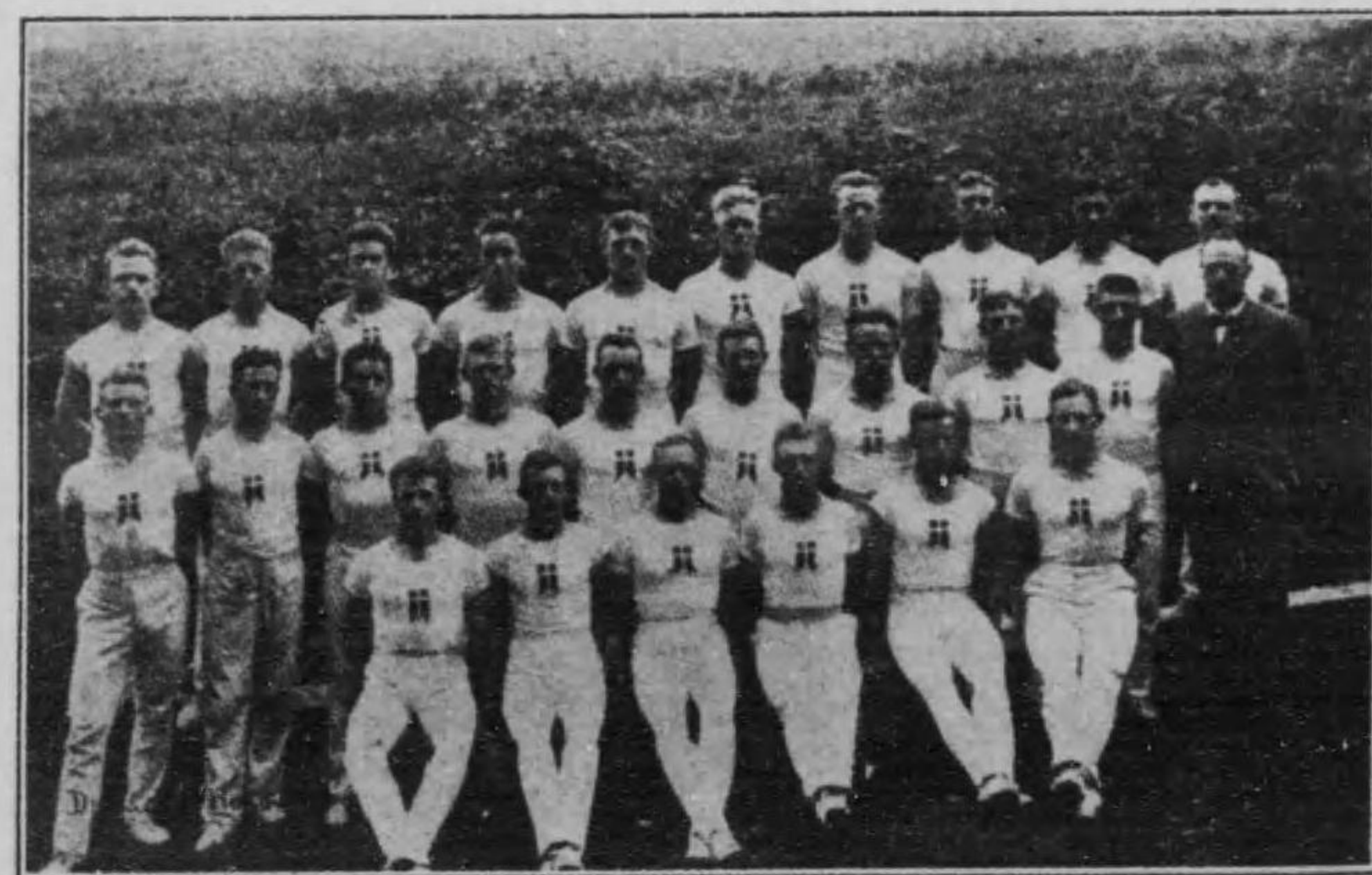


校學等高民國ゲンリスリ





者達熟操體の校學等高民國



那一の徒生校學等高民國



29/3-6

## 序

日本の現状を形容して、行き詰つたの一句を以てすることは、之を政治上にも、經濟上にも、その他凡ゆる方面に於ても聞く所である。困つたものだとはいふことは近來何事についても話の落ちである。これでは行かない、どうかしなければならぬ、とは異口同音の訴である。然らばどうしたらよいか、幾んど對策はない。が結局は教育の力による外なからうといふことになる。

しかるに教育も行き詰つて居る観がある。教育も何とかしなければならぬといふものが多い。それで教育をどう改革するのであるかといふと、矢張り案がない。唯教育の話になると、どうも我國の教育費は多過ぎる、大に節約を圖らなければならぬといふ。教育の力によつて社會萬般事物の行き詰りを打開しようと考へた結果は、教育費節減論に到着する。若し教育費を減じた揚句、政治上、經濟上、思想上等の行き詰り



が展開するを得るなれば、それほど結構のことではない。しかし、こんな不思議のことは出来るものでない。教育によつて諸般事物の進展を圖らんとするなれば、モット教育に力を入れ、モット金も使はなければならぬ、洵に明白の事ではあるまいか。

由來日本は國も府縣も教育に多く金を使はぬ點からいへば、教育に冷淡であるといはねばならぬ。市町村では教育に多くの金を投ずるともいへるが、分けていふと、日本の市は教育に金をつかはない、市は町村とは比較にならぬ位、教育費を出さない。歐米諸國の市が教育に多く費すのに比して、日本の市は極めて少い。今此等の點を詳論する場合でないから略するが、日本は教育費に最もケチな國である、これは事實を以て證明することのできる所である。

事物の根本的改善が教育に待つといふことは、恐らくは主義として何人も認める所であらう。日本の政治の根本的改善を圖らんとするならば、國民の教育を向上する外ない。世人は多く普選を以て政治改革の基調と考へるやうであるが、普選が普選の效果を現はすのは、國民の智徳の向上を前提とする。

農村も行き詰つて居る、疲弊してゐる。之を救済し之を振興する根本は農民の自覺奮勵にある、而して農民の眞の自覺奮勵は農民教育の進歩向上によらねばならぬ。かういふ議論も主義としては何人も一應は首肯するけれども、腹の底から成る程と納得して、農民教育の進歩を圖らうとはしない。却つて農村の教育は其の資力相應で満足すべしと主張する。こんな次第であるから、農村の振興は唯口に唱へらる、だけで、何時までたつても実績は少しも擧らない。

デンマークは五六十年前は非常に困窮した。國勢は頗る不振に陥つた。此の時一大偉人が出て國民を覺醒して、國民の智徳の向上を圖つた。其の結果今日では小國ながら教育が行き渡つて、國民智徳の水準が最も高い國となつた。それと同時に國勢は大に更張し、經濟的の發達は實に眼覺ましいものがある。デンマークは教育の進歩と經濟的發達との正比例的關係を最も鮮かに示す國である。それが爲め近來英米獨等の國



が盛にデンマーク研究を爲すに至つた。

フォート氏はデンマーク研究者として造詣の深い人で、其の權威として認められる人である。本書はデンマークに関する著書の中でも最も重きをなすものである。而して譯者水野君は其の海外留學中フォート氏に親炙して教を受け、常に著者に深甚の敬意を表してゐる人である。

私は今日此の良書を、此の良譯書を我が國民に推奨するを光榮とするものである。同時に本書が我が教育に、我が行き詰まれる農村の振興に、將た廣く教育と國勢との關係に心を致す人々に、裨益を與ふることの大なるものあるを信ずるものである。

大正十三年七年

澤柳政太郎

## 原 序

現今米國の農村生活は自然的發達の結果なりとはいへ、幾多の著しき變遷を経て居る。開拓者時代は既に終りを告げ、吾人の生活し來れる開墾時代は、將に眞の農民耕作の時代に遷らんとして居る。實に國民生活の新様式は、吾人に此の變化を強要して居る。今や吾人は土壤より科學的生産物を精々増殖せしむる國民とならねばならぬ。然らずんば、吾人は遠からず、收穫遞減によつて、長く惡闘せる古國民の悲境に復び陥らざるを得ないであらう。北米合衆國は最早や全農業國ではなく、實に半農半工業國であつて、益々組織的に發展する工業中心地は、漸次農村社會に蠶食の暴威を逞しくするであらう。

惟ふに全國の農産物を以てしても其の需要に應じ兼ねる事實によつて、此の國民生活の不權衡なることを察することが出来る。一九一〇年の國勢調査によれば、一八九九



——一九〇九の十年間に合衆國全部の農産物は漸く一割弱の増加率なるに對し、其の人口の増加率は二割一分である。且つ又同期間に於ける肉類製産の輸入は輸出を遙かに超過して居る。詳言すれば、同調査並に一九一四年人口概算によれば、若し一九一〇年に於けると同一畜産状況なりとせば、已に一千八百二十五萬九千頭の食糧全輸出高は二億五千萬弗より一億三千六百萬弗に激減し、食糧全輸入高は一千三百萬弗に増加して居る。莫大なる耕地を有し、自然的に恵まれたる事情を有するに拘らず、今や合衆國は毎年増加しつつある人々を、如何にして飢ゑしめざるべきかといふ當面の重大なる問題を有して居るのである。

是に由りて之を観れば、此の米國農村生活の重大問題は、實に農事生産額に嚴密に拘束され居るを知るに足るのである。蓋し生産物の數を増大せしむる事は、固より望まじき事ではあるが、主として生産額増加の問題である。土地の開拓は終つたが之れに科學的農業が勃興せねばならぬのである。一般に米國の國民的罪惡の一つは、實に

此の土壤消費といふ事である、換言すれば米國傳來の最も豊富なるものを掘り盡すと識者は言つて居るが、一般的に斯かる無關心の態度を變じて、如何にして農業改革に向はせるかが、問題の根柢をなすべきものである。

・ 少くとも米人の眞面目なる思慮を要すべき二要件がある。即ち一は米國農業家が在來消費せられたる資本と勞力とに對して今迄得たるものよりも更に良き收穫を得るやう、一層科學的に土壤を耕作すべきこと。第二は田園生活をして一層興味あり健全なるものとする事、即ち當時僅かの成功に満足せる者が、地方文化の中心地又は一層大なる都市に集中して、竟に其の地方の全生産に對しては實際に貢献するところ少く、或は全然皆無に終るが如き結果をもたらす事を防止するにある。

此の農事改革に資する要素は、勿論多々あるべきも、教育的の要素より偉大なるものは無い。農村社會に於て之れが多大の進歩開展を見る爲には、其の社會の内に偉大なる指導者を養成せねばならぬ。



此の種の人々は現代に漲る農業生活の困難に當面して、之れを開拓し得る剛健の精神と、充分に訓練されたる技量とを有する男女であらねばならぬ。而して此等の人物は唯適當に組織されたる教育のみ供給し得るものである。若し吾人が此の種の教育を受けたる男女を有する時は、他の大なる問題は、自然と解決されるものである。されば農民は土壤の神聖なる事を自覺し、其の土壤には少くとも收穫した額に應じて相當に肥料を投せねばならぬ事を覺るに至るであらう。

此の種の徹底せる教育は、整然と統一されたる團體組織を作らしめ、都市生活に集中されたる興味に對して、各自の地方的興味を享樂するに至らしめる。

農村地方に於ける社會的、經濟的、精神的退嬰は、かゝる新教育を受けたる指導者によりて覺醒せしめられるに至るであらう。

數種の實際農村社會學校は、此の種の自覺に依り、全米國を通じて各地に勃興し、此の農業的大改革に向ひ、百尺竿頭一步を進むる様に成つて來た。されど總て此等は眞

の初期に過ぎない。全般から云へば多數の米國農村學校は、此の新經過に彼等の根據を發見する事遅く、従つて農事改良の進歩を疎外し、進歩の先驅者なる事を忘れて居る、其の結果として當然能率低き農業と、農村棄却の責を自ら負はねばならぬ状態にあるものが多い。

勿論米國人は歐洲の教育制度を直ちに新らしき米國本土に移植せんと欲しないのであらう。

然し、吾人は永く經營せられたる農業國民の舊式制度に對して、効果ありしものに就き、其の利益を得る事には決して吝なるものではない。此の見解を以てして丁抹の農村並びに其の學校に關する著述が、出版されるやうになつた次第である。

丁抹は政治的及び社會的方面に於て、無殘なる國難に遭遇した。此の不面目極まる國には、其の農村地方に居任せる男女並びに兒童に對し、廣き修養と徹底せる職業的準備を供給する驚くべき學校制度に依りて、病源の根治劑を求めたのである。其の



結果は驚くべきものがあつた。戦争に依り不具者となり破産せんとした國民は、二世紀の間に歐洲の生産國中最も榮譽ある地位を贏ち得たのである。其の農業たるや、土壤より生産せしむる方法に於て、又世界の各市場に生産物を分配する方法に於て、決して他國の追従を許さないものがある。

丁抹に關する物語は本書の主として取扱つた問題であるが、蓋し之れは主として其の學校制度を通じて丁抹に來たりし多くの祝福をして、我が米人が目下の産業開展に急なるが爲め、忽諸に附せる事柄に注意を喚起せば、やがて我が米國にも將來し得べきを信じたからである。實に米國人の等閑視せる事柄は、丁抹人にとりては總ての成功の鍵となりし事を思へば、奮然として覺る所がなければならぬ。此の種の教育制度の改善には、何等現在の諸學校に根本的改革を要求するものではない。要は直接教育關係者をして、土壤其のものに當面せしめ、新らしき精神的向上を促すにある。然れば當然の結果として、一段廣き修養を與へ、科學的耕作法の實際的熟練を供給するに在る

のである。

本書に使用せる各種の材料は、合衆國文部省の委囑に依つて丁抹及び歐洲各國の學校制度を年餘に亘りて調査せる際に蒐輯せる所のものである。本書の材料は主として米國文部省より出版せる「農村丁抹の教育制度」「丁抹の農村小學校」及び「丁抹の國民高等學校」等に載つたものであるが、之に多少の修補を加へ、更に詳論を試みたものである。此等の材料を蒐輯するにあたり、多數の丁抹の農村家又は其の他各種の方面より助力を與へられたのであるが、其の事に關しては如上の三報告書に詳述してあるから茲に再録する必要はないと思ふ。



### 譯者自序

現代吾が國文化發展の經過を冷靜に考慮する時は、國策の樹立、民族の繁榮、生活の安定等喫緊の問題は決して少くない。されど國民の三分ノ二を占むる地方農民の開發程重大なる問題は少いであらう。其の繁榮と退墜とは我が國の將來を左右するものであつて、識者が銳意農村振興策を講じつゝ、あるは眞に意義ある事と思ふ。

然れども其の根本振興策は教育を離れて望む事は不可能である。翻つて我が國農村の教育制度を見るに、餘りに形式に過ぎて、都市の學校の縮圖の如き現在の農村學校を以てしては、如上の希望を滿すに餘りに實務と離れて、徒らに物識りを作るの弊を助長するばかりである。

斯くの如くして月を閲し、年を重ねて止まる所がないならば、或は教育を以て國を危くし、民を害ふに至る謗を免かれないであらう。譯者は大正二年より世界大戰の終り



し大正八年まで米國にありて、其の教育及び社會生活の實際を視察研究して來たのであるが、母國を離れて母國を見るに及び、一層日本の實狀を正視する事を得、一片愛國の至情禁じ難く、遂に米國農村教育及び丁抹の農村教育の研究に力を注ぎ、聊か日本の教育界の爲め、否邦家永遠の發展の爲め、貢獻せねばならぬと決心したのである。

歸來大正九年の春「輓近米國農村教育と其の施設」を著して研究の一端を披瀝し、其の姉妹編「丁抹の農村教育」は種々なる事情により未だ脱稿するに至らぬ折柄、偶々辱知澤柳博士を會長とする國民教育獎勵會が今般米國農村教育の大家ハロルド・ダブリュー・フォート氏を招聘せらるゝ事となり、此の機會に氏の著書を譯述せん事を慫慂されたので、茲にフォート氏の名著を譯述して之れを上梓する事にしたのである。

抑々農村問題は世界大戰以來世界の大問題であり、且つ我が國に於ても焦眉の問題である。一千九百二十年に於ける米國人口稠密の度合は、一方哩内に三十三人なるに對して、我が國は三百八十四人と云ふ桁違ひに多數なる割合である。十年間に米國は

二人六分の増加率なるに對し、我が國は八十八人といふ驚くべき割合で増加して居る。然るに生産者たるべき農家の戸數は、二十年來大差なく、加之文化發達の影響は耕地を漸次減縮せしめて居る。然るに各人の農産物消費量は年々非常に増加して居る。内地人五千五萬人に對し玄米七千二百四十七萬石を要するに、生産は五千五萬石の内造酒量に三百萬石以上を減ずるから、僅かに五千二百萬石に過ぎないといふ状態である。

又一方輸出入の状態を視るに、平時に於ては輸入超過を以て常態とし、輸出超過となるは變態で、戰爭の影響に依るものなる事は、輸出入統計の歴史の證明する所である。

斯くの如き状態を以てして、或は文化住宅に住み、之れに伴ふ衣食を整ふる時は、いづれも輸入超過の導引ならざるものなく、女學生の著る袴、頭を掩ふ帽子に至るまで輸入超過の要素なるを思ふ時、我が國民は此の際一大覺悟なかるべからざるは識者を



待つて初めて知る事實ではない。

實に我が國の現情は丁抹の往時の如く、其の思想界に於て、政治界に於て、產業界に於て、いづれも沈滞し、一國を擧つて意氣消沈し、人はたゞ生活を維持するにのみ汲々たる有様である。斯くて農民は窮乏の極に達すといふも過言ではない。

資本家對労働者の葛藤、地主對小作人の爭議等は、已に其の緒を開き、農民問題も亦た將に當面の急務たらんとして居る。

排日的傾向は世界的に瀰漫し、内野心家に乘すべき機會を與へ、外既に迫れる種族競争の舞臺に我が面目を失墜せんとして居る。實に邦家の前途未だ枕を高うする事が出来ないのである。此の時に當り、四十餘年前恰かも今日の日本の如き事情にありし丁抹が、今日修養あり見識ある好箇の紳士の農民と成り、其の農村の開発は同國獨特の農民文明なるものを現出するに至り、其の進歩せる產業組合は全世界の模範となり、社會組織に一種の革命を齎らしつつある丁抹の農村教育を討究するは、後れた

りと雖も頗る意義ある事と思ふ。

然も偉大なる見識と研究とを以て、丁抹農村及教育の實情を踏査せる本書の著者が、近く我が國に來つて、各地に農村教育の講演旅行を爲す前に當り、本書を出版するは頗る有意義の事と思ふ。たゞ公私匆忙の間に抄譯したるものであるから或は充分に著者の眞意を盡さざるを恐るゝ次第である。幸に本書により北海道荒き中に奮闘せる國民の活動せる事蹟を想起し、其の大精神に觸れて共鳴蹶起するの士あらば、啻に譯者のみの幸甚ではあるまい。

大正十三年六月

譯者識



ハロルド・ダブリュー・フォート氏略歴

地||ノールウェーフレデリックシャル。

生 年 月||一八六九年十二月七日 當年五十四歳。

學 歴||一八七五—一八一年迄 フレデリックシャル・ラテン學校在學

一八九〇 ネブラスカ・ハイスクール卒業(米)

一八九三—五 ネブラスカ大學在學。

一八九七 アイオア大學卒業 B・Aの學位を得。

一九〇〇 イリノイ州ロックアイランド大學にてM・Aの學位を得。

一九〇〇—一 コーペンハゲン・ロイヤル・フレデリック大學在學。

一九一八 アメリカン・ユニヴァーシティーにてP・H・Dの學位を得。

職 務||一八九〇 農村學校教師。

略 歴



- 一八九五—七 エルク・ホーン・カレヂにて歴史及び社會學教師。  
 一八九七—九 同校々長。  
 一八九九—一九〇〇 歴史及び教育學教授。  
 一九〇一—三 アンスガー大學々長。  
 一九〇三—六 ミッドランド大學々長。  
 一九〇六—八 同上大學の歴史及び教育學教授。  
 一九〇八—一二 カークスビルステート・ノーマルスクール農村教育教授。  
 一九二二—二四 米國文部局の農村教育専門家。  
 一九二四—二七 同上。  
 一九二七—二九 米國文部局農村教育部長をつとむ。  
 一九一九年以來現在のサウスダコタ、アバーデーン師範産業學校長。

著述の主なるもの（調査報告書を含む）

- 1900 American Rural School.  
 1911 First District Normal School, Kirksville, Missouri.  
 1913 Rural School Consolidation in Missouri.  
 1915 Rural Denmark and Its School.  
 1915 Rural Teacher and His Work.  
 1915 The Rural School System of Minnesota.  
 1915 The School System of Ontario.  
 1916 Educational Exhibits at The Panama-Pacific International  
 Exposition.  
 1916 A Survey of Educational Institutions of the State of Washington.  
 1917 Educational Resources of Rural and Village Comparative Educational  
 System.







- 一八二一年 コペンハーゲンにて牧師となる。
  - 一八二五年 宗教上の反対意見を出したが爲め入牢。
  - 一八二九―三一年 英國に渡り文學研究に従事。(時四十五歳に)
  - 一八三二年 大神話學を出版、中に國民高等學校論あり。
  - 一八三九年 コペンハーゲンにて病院附屬教會の牧師となり、死期迄其の職を去らざりき。
  - 一八七二年 死亡。
- 牧師就職よりの五十年祭を行ひ、僧正の稱號を受く。百卷以上の文學的著作あり。

目 次

第一編 丁抹農業復興の近況

第一章 最近に於ける田園の開拓

- 第一節 國土と住民
- 第二節 特筆すべき開墾事業
- 第三節 協力事業の驚くべき發展
- 第四節 監督組合と官營飼育中心地
- 第五節 大地所の分割
- 第六節 農村社會生活
- 第七節 一世紀間の變遷



第二章 内地開拓の努力……………二九

- 第一節 丁抹復興は國富の保護と増殖とによる……………二九
- 第二節 往時に於ける丁抹本土の荒蕪地……………三一
- 第三節 最初の開拓計畫……………三三
- 第四節 ダルガス氏と丁抹ヒーザー組合……………三五
- 第五節 荒蕪地の再植林……………三七
- 第六節 水位の調整による開拓……………四〇
- 第七節 灌溉と排水……………四三
- 第八節 土壤構成の事業……………四四
- 第九節 我國農民に對する教訓……………四七

第三章 丁抹農業制度に於る協力事業の勢力……………五三

- 第一節 概 説……………五三
- 第二節 豫備楷梯の遺憾なき徹底……………五四
- 第三節 購買及び販賣組合……………五七
- 第四節 協同牛乳搾取場の地位……………五九
- 第五節 急進せる共營燻肉工場……………六三
- 第六節 鶏卵の輸出と科學の應用……………六七
- 第七節 完全なる田園の信用貸……………六九
- 第八節 國家の小作人……………七一
- 第九節 丁抹の信用組合……………七三
- 第十節 丁抹小作農と彼等の教訓……………七四

第四章 丁抹農村に於ける社會的生活……………八二



第一節 經濟的繁榮と満足なる社會生活	八二
第二節 社會生活と自然的環境	八五
第三節 祝祭日と饗宴	八七
第四節 農村社會生活と技術者	八八
第五節 教會と學校	八九
第六節 健全なる農村娛樂	九二
第七節 我が國に於ける農村娛樂の缺乏	九五
<b>第二編 農村學校作業改革</b>	<b>一〇五</b>
第一章 教育制度の概論	一〇五
第一節 農村の發展を可能ならしめし諸學校	一〇五
第二節 授業料なしの小學校	一〇七

第三節 身體發達の時期	一〇八
第四節 國民高等學校と其の修養期	一一〇
○ 第五節 地方農學校並に家庭經濟學校と科學的教練	一一二
第六節 小地主の特別學校	一一三

**第二章 農村小學校**……………一一五

第一節 義務教育	一一五
第二節 授業日時數	一一八
第三節 學科課程と學科目	一二一
第四節 教授法と學校の實際	一二六
第五節 校舍及び校地	一三八
第六節 教師の養成と其の資格	一五三



第七節 教師の待遇並に其の地位……………一六一

第三章 地方農學校……………一七二

第一節 農學校の概観……………一七二

第二節 リングビー農學校……………一七四

第三節 ダラム農學校……………一七七

第四節 ラデランド農學校……………一八四

第五節 王室家畜大學校……………一八八

第四章 特別農學校(小地主の特別學校)と家庭經濟の

農村學校(農村家政學校)……………一九〇

第一節 ケレハープ學校……………一九〇

○第二節 家庭經濟の農村學校……………一九五

第五章 國民高等學校の發達史……………一九九

第一節 國民高等學校と農業的革新……………一九九

第二節 著名なる經濟學者及び教育家の證言……………二〇一

第三節 ニコライ・フレデリック・セベレン・グランドウイッヒ……………二〇四

第四節 グランドウイッヒと青年の福音……………二一一

第五節 グランドウイッヒの學校に於ける最初の理想……………二一三

第六節 王室自由學校……………二一九

第七節 リューデング國民高等學校……………二二一

第八節 クリストテン・コールド……………二二四



第六章 國民高等學校(フォーク・ハイスクール)……………二三三

第一節 職員と生徒……………二三三

第二節 國庫補助と生徒の學資……………二四〇

第三節 訓練と教授……………二四五

第四節 特色ある校是……………二四八

第五節 模範的國民高等學校……………二五九

第二編 丁抹國民高等學校の移植……………二七三

第一章 西歐諸國への移植……………二七三

第一節 國民高等學校の適應性……………二七三

第二節 瑞典に於ける國民高等學校……………二七四

第三節 諾威に於ける國民高等學校……………二七七

第四節 フィンランドの國民高等學校……………二八一

第二章 英國に於ける國民高等學校……………二八三

第一節 丁抹の視察……………二八三

第二節 ファークロフト學校……………二八四

第三章 北米合衆國に於る丁米國民高等學校……………二九四

第一節 移植の歴史的起源……………二九四

第二節 エルク・ホーン國民高等學校……………二九七

第三節 ニステッド國民高等學校……………三〇〇

第四節 デーンボッド國民高等學校……………三〇二



第五節 丁米國民高等學校の發達に對する障礙……………三〇四

結論……………三〇九



# 丁抹の農村と其の教育

ハロルド・ダブリュー・フォート博士原著

横濱高等工業學校教授 文部省囑託マスター・オブ・アーツ 水野常吉抄譯

## 第一編 丁抹農業復興の近況

### 第一章 最近に於ける田園の開拓

#### II 第一節 國土と住民 II

世界の農業國といはるゝ丁抹は、歐洲の北端に位する蕞爾たる一小國で、其の面積

僅かに一萬四千八百二十九平方哩に過ぎない。(其面積人口共に我が九州に及ばざる事遠い) 國は

第一編 第一章 最近に於ける田園の開拓



大洋の蜿蜒たる灣入に依りて切斷せられ、中央に突出せる一大半島と、羅列する五百有餘の島嶼とより成り立つて居る。然も若干の島嶼は、經濟的には何等價值を有せざる沙洲である。歐洲北部の低地域に屬し、海拔平均約九十五呎にして、海上より隆起する事少きを以て有名なる國である。

表面の土壤は概ね輕質土にして、地味頗る瘦瘠の所も尠くない。而して内部の土壤は堆石粘土であつて、石灰質に富み、小石を混へ、種々の礫岩を含んで居る。丁抹本土（ジャット・ランド）には氷河時代に出來た大荒蕪地が展開して居る。其の後の發達に因る泥炭沼は大部分の島嶼に散在し、ソーベ島にては澤地が海面より隆起して居る。又た沙の堆積は、丁抹本土の北部海岸を圍繞して居る。

全土を瞥見して地味の點より考ふる時は、此の國は天然から繼子扱にせられた觀がある。然るに此の國が事實上土地より偉大なる收穫を收めて居るのは、其の土地が何等新鮮にして處女地の如く肥沃であるとか、又は自然的財源を有するが爲めとかでは

ない。たゞ、自然的に瘦せ切つた土壤を耕作するに、廣き一般的の知識を適用し、多倍々耕作の方法を改善せしめたるに過ぎないのである。

氣候は極端に寒冷ではないが、一年中の大部分は濕潤にして不健康な氣候である。是れ主として間斷なく大洋より吹き來る寒冷にして陰鬱なる西北風に因るのである。一年平均の雨量は二四・九四吋で、一年中九十四日間は濃霧に襲はれ、最も惠まれたる地方と言はれてゐるコペンハーゲンに於いてすら、僅かに五十日間しか日光を拜する事が出來ないと云はれて居る。當然の結果として作物を收穫するに多大の困難に遭ひ、家畜は一ヶ年中九ヶ月間厩舎内にて飼育せられねばならない。

上述の如く天恵に浴せざる國土の住民は、自ら自然に對して大なる奮闘を續けねばならぬ。然るに僅か二代以内に、斯くも貧弱なりし農業國が、今や歐洲大陸は愚か、世界にも冠たる農業國と一變したのである。斯くて土地は豊富なる産物を提供するに至り、此等の生産物は特別に此の目的の爲めに訓練せられたる農民各自の手にて、世界の



市場に各種の優良品を輸出して居る。

毎年輸出額の急速なる増加率を示す次の數字は、最もよく丁抹農民の成功度を示したものである。

一千八百八十一年即ち農民の共同作業が開始されし以前に於ては、バター、ベーコン及び卵の輸出額は一千二百〇一萬弗であつた。然るに二十三年後の一千九百〇四年にはそれが六千八百〇七萬弗と成り、其の後八年間の終りには一億二千五百萬弗に激増して居る。斯かる數字は農産物科學的處理法並に農産物の販賣法に關する知識が、急激に普及せる事に原因し、此の普及は眞に農村の要求に適應せる教育制度の徹底に起因して居るのである。

丁抹の全人口は三百萬人に過ぎない。而して今より一百年以前には殆んど全國民を擧げて農業に従事して居つたが、現今は内六割一分以上が農村住民として分類せられて居る。

一千八百〇一年には農村地方の住民は七十三萬三千人で、首府には十萬二千人、地方的都會には、九萬四千人住んで居た。漸次時代の推移につれ、英國及び他の諸國に勃興したる産業革命は、又た丁抹にも起るやうになり、首府のコペンハーゲン及び地方的都會の人口は、直ちに農村地方を超過するに至つた。無趣味の農村生活に倦きたる農民は、娛樂の機會の多き都市を憧憬すること其の極度に達し、漸次農村人口の都市大移動が起つた。此の人口都市移動の經過は、次の數字に依つて明示される。

一千八百〇一年より一千八百四十年までの間に、首府は千人につき僅かに四十八人の増加であつたのが、其後四十年即ち一千八百八十年迄の間には百九十人に増加し、其後一千八百九十年即ち十年間には三百二十五人の多數を示すに至つた。地方の都市に於ても同様に急速なる増加率を示して居る。然るに農村地方に於ては、一千八百〇一年より一千八百四十年迄の間に千人につき八十五人の割合で増加したが、一千八百四十年より一千八百八十年の間には千人につき二十一人の増加といふ驚くべき現象を



呈して居る。此の時を劃して一大變化が起つた。即ち一千八百九十年より一千九百〇一年の間に首府の増加率は二百五十九人と減じ、一千九百〇一年より一千九百〇六年までの間には百五十二人となつた。然るに農村地方に於ては、一千八百八十年より一千八百九十年には二十一一人、又一千八百九十年より一千九百〇一年には二十八人に増加し、一千九百〇一年より一千九百〇六年には九十九人といふ大増加率を示して居る。是に由つて之を観れば、都市流入の潮は、暫時の間驚くべく高潮せられた事が明瞭である。然るに一千八百八十年代の終りに於ては、農村發達に於ける最低干潮を示した。一千八百八十年より一千八百九十年即ち十ヶ年の間に於いては、農民の間に協力機關が成立し、潮流は再び逆轉して都市に於ける高潮は緩和されるに至つた。一千九百〇一年と一千九百〇六年との間に千人につき二十八人より九十九人の増加になつた事は、實に著しき現象である。此時に於いては全人口の六割が田園の生活を試みて居つた。其の時以來農村の人口は六割一分以上の増加を來したのである。

丁抹に於ける人口移動運動を、合衆國に於ける同一運動と比較するのは、頗る興味がある。國勢調査の結果によれば、一千七百九十年に於いては僅かに全合衆國民の三分四厘のみが都會に生活し、國民は全般に地方的であつた。然るに一千九百年には三割三分四厘が四百以上の都會に生活して居た。一千九百十四年には、五割の人々が産業的都市に集中した。將來とも合衆國にては、各産業中心地に人口の増加發展を續行すべしと豫期されて居る。

此の都市への人口移動經過は、丁抹のそれと髣髴たるものがある。一千八百六十年以後の所謂米國農村發達第三期に於いては、農村の青年が田園を棄て、新都市に流入せんとする顯著なる特徴が表はれて、都市に對する憧憬及び其の都市に於て獲得し得べき成功は、田舎の強壯にして自治心強き青年を吸収し始め、漸次「都市へ〜」との大なる叫びが増加した。特にニューヨーク、ニューイングランド等にては、多くの田園を棄却する者さへ現はるゝに至つた。然るに西部に於いては農民階級の前途有望な



る多数の青年を失ひしのみならず、又た農村にては發展の機關及び社交的機關の缺乏より田舎娘をも多数都會へと送るに至り、農業を以て生涯の事業とする青年男女が尠くなつた。加ふるに農村の他の階級が又都市に向ひ、農村地方を去り始めた。機械並に勞力經濟法の急速なる適用に伴ひ、以前の農業に於いて使用されし多数の人手を省き得るに至り、極く少數の勞働者が從來多人數を要せし勞働を完成し得るに至つた。然し此等の人々は、複雑なる機械を運轉し得る頭腦をもつものでなければならぬ。以前の人々は各自の勞働口を探さんと都市に行かねばならなくなつた。されば其の結果として強壯且つ人格高き多数の青年と同時に、無数の貧困にして教育無き人々が、又た都市に流入する現象を呈したのである。此の現象は將來も永く續くであらう。されば米國に於いては農業状態を將來とも系統的に組織し、年々農村人口の自然的増加に伴ひ、土壤の上に立ちて生存せんとする農村訓練を受けたる人々の大部分を、農村に保留する様組織せねばならぬのである。

(譯者註)

我が國には未だ農村人口と都市人口との判然たる區割が出来て居らぬ爲め、統計的の移動運動の迹を辿る事は一寸不可能であるが、事實の上に於いては丁抹や米國に起りしと同一現象が起つて居る。最近産業勃興時代に於る現象を統計的に表示したならば、恐くは何人も寒心せざるべからざる印象を與へらるゝであらう。米國の國勢調査では、人口二千五百以下の處は、農事情の下に生活するものとして取扱つて居る。又日本の貧弱町村の平均人口は約二千五百位であるから、譯者は此の標準に従ひ統計的調査を試みようとして豫定して居る。先づ此の標準を基礎として農村學校の事情を調査したい希望である。其の際は讀者諸君の協力を御願したい。扱て農村人口の整理問題は現下日本國策中の大問題であらう。丁抹や米國の如く科學的研究の適用、機械力の利用、又は農村電化の如き事業發展せば、現在にても少くない農村事業は人手を要する事益々少くなり、農村人口の過剩を來すであらう。或地方の卓識ある



一郡會議員は嘗て予に説いて曰く「現在我が地方の農業組織を改善し、科學的管理の原理を適用するならば、恐くは現在従事し居る人手の三分ノ一で同一以上の收穫を擧げ得るであらう。然らば其の他の三分ノ二の人手は之を如何にすべきか、研究問題である」と。是れ當に一地方のみであらうか、否決して然らず、日本國民全體に關する大問題であると思ふ。予の空想かは知らねど、日本の國策としては、人種の西部移動を起す事が合理的であり、且つ自然の成り行きであらうと思ふ。人種の西部移動とは何を意味するか。曰く、内地に溢る、人口をして比較的稀薄なる朝鮮に移動し、朝鮮中西に移動せんとする者をば拒む事なく、滿洲に移動せしめ、滿洲より又蒙古に、西伯利亞に、移動せしむる大運動を起す事である。此の方策には種々の形式もあるであらうが、過剰の人口は西部韓支滿蒙に波及するより他に近道はないであらう。南米ブラジル移民、出来るならメキシコ移民、何れも將來共努力せねばならぬ方面であらう。

事茲に至れば教育の制度も、方法も、更に考慮を要する事となり、適材を適所に發展せしむる職業指導の如きは、徹底的に各教科目に加せられ、其の地方産業に適する者を選択し指導して、地方産業の能率を徹底的に發揮せしめ、同時に各人の天才天職に安じ、各々其の分に應じて能率を發揮せしめ、以て恒産を興へ、恒心を養ふ事が出来るであらう。現在の國民生活状態を以てしては、政府が如何に人心安定を叫び、思想の善導を鼓吹しても、患根はより一層深刻なる所に在るを以て、百の講演會、千の出版物を以てしても、此の不安を一掃する事は出来ないであらう。吾人も聲を高くして生活の改善を叫んだ。然し、詮じれば問題は再び茲に歸著する。勿論不經濟な生活、不便な活動、是に伴ふ徒費もあらうが、徹底的に之を改善するには、資本が入り費用がかかる。輸入超過が常態にして輸出超過が變態なる事情にある日本人は、歐米人の贅澤は模倣したくも出来ぬ境遇にある事を觀念せねばならぬ。我が日本の實際を正視する時に、吾人は眞の消費節約の意義を悟るであらう。



此の點に憂を懷くの國士、決して少くはあるまい。吾人は再び聲を大にして偉大なる政治家出でよ、憂國の教育者出でよ、地方の改革者出でよ、今は明治維新にも増して全國民奮起を促す秋である、と叫ばんとする。

### || 第二節 特筆すべき開拓事業 ||

丁抹にては先づ都市へと流れ出づる路を堰き止めて、農村社會の繁榮と満足とを恢復する基礎を定めた。事實上舊丁抹は、此等農民を愛して踏み止まりし人々の勤勉により、革新せられたのである。常に北海より吹き來りて丁抹本土の西海岸を吹荒らした烈風は、沙丘の堆積物の排列に因りて防止せられ、島の周圍に植ゑられたる松及び樅は、四時絶え間なく吹き荒ぶ北西風の勢力を殺ぎ始めた。宏大なる常綠樹及び落葉樹は、荒蕪地をして雅致あるものと爲し初めた。

又内地の沼澤地より流れ來れる水は、乾燥せる丘陵灌漑に利用され、生産的の牧

場と變化した。到る處の原野や牧場は、注意深き耕作と適當なる施肥に依り、生産率を増進した。總ての厩舎の不潔物は適當に處理せられ利用せられた。泥灰土は大なる努力を以て發掘せられ、原野を肥沃ならしむる爲めに分散された。安價なる磷酸肥料は米國より多量に輸入せられ、到る處に生産物を作り出さんが爲めに利用された。砂利を敷いた大規模の道路は、農園より市場に近く敷設せられ、農園より都會に原料を運搬するを得しめ、且つ便利ならしめた。無料農村の配達、又は小包郵便は長く續行せられた。農村電話は普及し、各地の農村家庭及び農村學校等は、何れも風力を原動力とする電氣に依つて光りを供給されて居る。斯くの如く丁抹農民の修養と勤勉とは、全士を擧げて視察者に隔世の感を與へる迄に、開拓事業を發展せしめた。

### || 第三節 協力事業の驚くべき發展 ||

土壤よりの生産額を増加する事は農業のため一面方である。又收穫せる産物を世界



の市場に輸出する事は、全く他の一面である。然るに丁抹の農民は此の生産、分配、  
 兩方面を圓滑に解決した。先づ後に説かんとする多くの學校特に國民學校は、農民に  
 對して此の共同作業の著しき發展を可能ならしめる相互の信用及び自信の徳を高調し  
 た。實に丁抹農業各種の發展上、此の協力の精神以上に、偉大なる貢獻をなしたも  
 のではないといはる、程の大精神は、國家を熱愛せる大教育家グランドウィツヒの精神を  
 體せる國民高等學校より其の源を發して居る。

丁抹に於ける數十萬人の會員より成る一千四百の共同商會は、年々四億圓の貨物を  
 販賣して居る。加之、數百の組合は糧食、肥料、並びに各種の農具の聯合購買組合を  
 組織して居る。又た聯合販賣組合が各種の方面に組織され居る事は、恰も英國のロッ  
 デール制度の各商會が聯絡し居るが如き有様である。

共同牛乳並びにチーズの製造所は、丁抹の農村産業の名聲を海外に轟しむる第一の  
 産業であつた。此の種の最初の共同製酪所は一千八百八十二年に創設された。一千九

百十三年の初めに當りては、斯かる共同製酪所が一千八百八十八以上もあつて毎日活  
 動して居つた。

如上のもの、外に一千五百十六人の會員より成る三百二十八の私立製酪所があつ  
 た。

斯くて此等の共同作業所は約二百七十億疋の牛乳と、九千六百五十萬疋のバターを  
 製造して居る。

ジーランド・ハッセレーブに於けるトリフォウムの一製酪所は、一萬二千の乳牛よ  
 り集る二億八千五百疋の牛乳を取扱ひ、十五種もある四萬のチーズは、常に製酪所の  
 貯藏室に蓄へられて居るが、若し此等をば端と端とを接して、列に排列すれば、十三  
 哩以上に續く多量さである。

此の小王國は整然と組織されたる六十四のペーコン製造所を有し、内四十二は共同  
 組織で、農夫自身が管理し居る事を誇りとして居る。丁抹の農民は全部此等の組織の



何等か一つに屬して居らないものはない。其の農民が一年に僅か六匹の豚を飼育して居る一小小作人なると、三四百の飼育者なるとに關せず、其の團體の一員たる權利を所有して居る。一千九百十四年に於いては、約二百萬頭の豚が此の共同ベーコン製造所にて屠殺せられ、其の價格は實に三百萬弗を超えて居ると云はれて居る。此の計算には食肉獸の屠殺分は入つて居らぬ。此の食肉獸に關する、事業は全く副業的産業である。然し副業的産業であるからというて、決して輕卒には取扱はれない。輸出の爲めの豚は、政府の役人に充分綿密に検査され、如何なる病毒をも有せざる事を保證されなければならぬ。然らずんば赤き官許の輸出票を貰ふ事は出來ないのである。従つて斯く迄注意を拂つたものから製造せらるゝベーコンは、英國の市場に於いて西半球の何れの生産よりも優れたる最上品として賣買される。扱て豚肉生産作業の過程は、紐育より倫敦に於ける販賣に至る迄、農村學校の特別講座にて訓練されたる農夫自身により遂行されて居る。

## 〔譯者註〕

日本將來の農村教育上大なる暗示ではあるまいか。

鶏卵の輸出に於てすら有力なる共同組合が組織されて居る。一千八百九十五年に創始せられたる此等組合は、今や其の數五百も集合中心地にて成立を遂げて居る。丁抹の卵は海外に於ては著しき高價で販賣される。是れ此の國の卵は科學的に取扱はれ、新鮮なる絶對保證の下に賣られて居るからである。其他各種の商品悉く徹底的な商標制度に依つて成功して居る。即ち此の制度の下にて取扱はれる卵は、頗る嚴重なる規則の下に集められ、選擇せられ、且つ荷造りせられるのである。

## || 第四節 監督組合と官營飼育中心地 ||

農業的努力は、監督組合補助者、及び農學校の特別課程にて訓練されたる地方農村専門家の派遣に因り、完璧の域に到達せりと言はれる程に、組織的之、而も圓滿に遂行



されて居る。派遣さるゝ此等の人々は、バター製造を目的とする牛乳を試験し、飼育法を教へ、土壤の分解を試み、如何に土地を肥沃ならしむべきか等に就き各種の注意を與へ、又た農業簿記法を教へ、家畜の結核を試験し、其の他耕作上の實際的補助を與へて居るもので、斯る組合が五百二十四も存在して居る。此の機關の大切な事は、一千九百十一年中に、組合に屬する乳牛が、組合に屬せざる乳牛よりも平均一頭に付六百封の牛乳と、二十三封のバターとを多く供給して居るといふ事實に徴しても明瞭である。

此の監督組合の主眼とする事業は、農村の産業組織を完全にし、有ゆる方面の徒費を除去するに在る。合衆國にても亦多くの進歩的地方に於ては、農業忠告者なる者を任命しつゝあるは、農業改革の一徴候として喜ぶべき事である。

丁抹政府は又、農業改善の積極的の方策として、各農事試験場に於て各種の補助者を教養しつゝある。政府の努力の最も著しきものは、家畜の優良種族に對し、飼育中心地の補助及び其の維持を試み居る事である。一例を擧ぐれば丁抹固有の二種の馬匹、即ち巨大に肥れるジュテツシ種栗毛馬及び瘦せ形のフレデリックスポルグ種紅鹿手馬との改良に鋭意努力して居る事である。其の他優良種族と認められる白黒(ジュテツシ)乳牛、小型赤(ヒューネン)乳牛及び體軀大にして白き丁抹の陸豚等は、極力改善に努力せられつゝあるものである。一千八百九十年より一千九百十三年迄に、一千九百十

一の家畜飼養組合が成立した。農事改良に對する是等組合の貢献たるや、蓋し鮮小ではないのである。

## || 第五節 大地所分割 ||

大地主繁榮の時代は、丁抹に於ける過去の事である。農民が彼等自身政府を指導する事を知りし以來、既成農園の多數を合併する事を禁ずる法律を制定した。又一方に於ては大農園や大地所を數部に區分する事が法令に依つて獎勵された。且つ政府は三分五厘乃至三分の長期低利資金の流通により、農園労働者を地主にする事を獎勵して居



る。又農民の地方信用組合は、組合員を助けんが爲めに、土地や農園の改善を目的とする事業に對して、四分の低利を以て資本を融通をして居る。此の農村信用組合は、他の事情にては殆んど其の機會を見出す事の出来ない貧困者をも、獨立自營の人たらしむる様に努力して居るのである。従つて丁抹農民は僅か其の十五分ノ一だけが小作人又は借地人であるといふ、實に驚くべき状態といふべきである。著者(フォート氏)の視察せる際には、十一萬六千六百〇四人の農夫が七エーカー五分ノ一以下の農園を所有し、二萬八千九百九十二人の農夫が十一エーカー四分ノ一より廿二エーカー二分ノ一の農園を所有し、三萬五千二百五十七人の農夫が卅三エーカー四分ノ三より六十七エーカー二分ノ一を所有し、六千五百〇二人の農夫が百卅五エーカーより二百卅七エーカーを所有して居た。而して五百四十エーカー以上を所有して居る者は全國を通じて僅か廿二人に過ぎなかつた。但だ例外は歴史的領土の大地主であつて、新土地法案を以てしても分割し得ざる所のものである。されど最近此等大地主も自發的に之を小

地所に分割した。斯くして内包的に小農園が益々増加しつゝ、あるのである。

## 第六節 農村社會生活

農村地方に農民の人口を増加せんと欲せば、少くとも二條件が必要である。第一は投下せる資本と勞力とに適應せる收穫が得らるゝ事で、第二は農村社會に於ける社會生活が相當に満足し得らるゝものでなければならぬ。前者なくしては何人も農村に甘んじて止ることが出来ない。而も丁抹は此の方面の問題は既に解決した。後者に關しては假令農業が職業として相當に有利に營まれたとしても、單に有利といふのみにては、農園に生産的人口を増殖せしめ難い。少くとも吾々の日常生活には人間としての趣味感興を感ぜしむるものが無ければならぬ。若し田園生活に於ては毫も社會的感興を感ずる事が出来ぬとしたならば、人々が之れを得らるゝ地方に移動するは寧ろ當然であらう。



## || 第七節 一世紀間の變遷 ||

十八世紀の中葉に於ける丁抹農村の状態は誠に慘憺たるものであつた。耕作し得べき土地の大部分は、傲慢なる地主、貴族、或は君主の領土として専有されて居つた。自由に土地を所有し得る農民も、波瀾多き中世紀に於ては獨立の地主として繁榮したものは少かつた。農民の大多數は田地附屬の奴隸制度に支配されて居つた。此制度にては、彼等は生れて四歳より卅五歳に至る迄、生れた土地に在留せねばならなかつた。此の監禁の時期が経過すると、彼等は各所屬の領主から殆ど堪へ難き虐遇の下に土地を小作させられた。其の他の勞役に於ても勿論賤役に従事せしめられ、或は毎週特定の日數だけ領主直屬の領土に働かしめられた。加ふるに彼等農民は重き十分一税を賦課され、個人的進取の氣象は、此の制度の下にあつては自ら抑制された。唯だ彼等は無智にして平凡に土壤耕作に従事せしめられた。従つて土地は貧弱なる取扱ひを受け、農業に科學を應用する事などは、夢にも知られなかつた。政府に於てすら不公平なる社會組織の

下に苦しめる之等農民に對し、思切つて重税を課したもの、如く、特に法外なる輸出税の賦課は一層彼等を苦しめて居つたのである。

當時農民の失望の盃を滿すに、激烈なる家畜の疫病が全國に漲り、ハンブルグの市場に生きたる家畜の姿を見なかつた。然も此の家畜は唯一の輸出品であつたのである。

首府コペンハーゲンの最も目抜の場所に、自由記念碑と稱する方尖石塔が建つて居る。此れ即ち一千七百八十八年に於ける田園附屬奴隸解放の記念碑である。此の一面に銘がある。曰く、『國王は、正義の法律に基ける市民の自由は愛國の精神を與へ、國家を守護せんとする勇氣、知識の欲望、産業の欲求、繁榮の希望を與ふる事を知れり』。又他の一面には『國王は、田園奴隸制度撤廢土地法は秩序と勢力を與ふべき事、自由農民は勇敢にして聰明、勤勉にして善良、幸福にして榮譽ある市民たるべき事を命ず』と。聰明にして豫言的なる此等の言は、一世紀中に此等解放せられたる人々によりて、充分に證明せられたのである。



第一の改革は、一千七百八十一年に始まつた。當時に於ては、土地所有の共産論は放棄せられて居た。其の後三年にして莫大なる帝王領土は分割され、一千七百八十八年に田地附屬奴隸制度は終焉を告げた。穀類、家畜類の輸出税は撤廢せられ、又た政府は新小作人の獨立生計を援助せんが爲めに、信用貸付資金の制を創定した。此の改革時代には人民の生活に異常の變化を起し、農事は著しき進歩を遂げ、公立學校は改善せられ、知的文明は駁々乎として發展した。併し乍ら聽て歐洲全土に破滅を與へたるナポレオン戦争が起つた。此の戦争で丁抹は政治的破産の状態となり、艦隊は全滅せられ、制海權を失つた。諾威は又地理的に領土を縮小せられ、國民は失望の状態に残された。食料の出船停止が解除せらるゝや否や、穀類の價格は生産費以下に下つた。實に一千八百二十三年より一千八百二十五年の間は、國民の農業生活に於る一大危機であつた。大地主の三分ノ一以上は、此の大鐵鎚の打撃の爲めに所有者が變つて來た。再び愛國的指導者は救濟し來り、一層改革を完成し、其の結果漸次救助されるやうになつたのである。



第一編 第一章 最近に於ける田園の開拓

第二の國民的打撃は、一千八百六十四年に起つた彼の憎むべき獨逸戦争に伴つて來たもので、人種的差別により激昂せしめられ、且つ長びいた戦争であつた。即ち一千八百四十八年に、丁抹と反抗せるスレスツイツヒ・ホルスタイン公國との



間に起れる最も慘憺の極度に達した戦争であつた。其の當時丁抹は勝利を博した。然し憎悪の熱情は人種の相違によつて一層高められ、永く兩種族の間に刻銘せられた。北部スレスヴィツヒに於ては、大部分が丁抹語を使用する國民であつたが、政府當局者は大の獨逸同情者であつた爲めに、あらゆる手段を講じて人心を攪亂し、騷擾に陥らしめんと努めた。此の危急存亡の秋に際して、最初の國民高等學校はリューデングに創設せられた。是れ實に一千八百四十四年のことであつた。此の地は獨逸領と丁抹領との境界より距ること南方僅か數哩の地であつた。

此の國民高等學校に就いては後ちに詳述するのであるが、此の學校創立の目的は主として丁抹農村復興の機關たらしむるにあつた。抑も此の學校の環境は、激烈なる死活問題の争に充ちて居つたに拘らず、本校は實に愛國的精神によつて創始されたものである。然し、スレスヴィツヒは戦争の結果遂に獨逸領に歸したが爲め、已むなくリューデングより丁抹本土内のヴェージンといふ處に移轉し、校名をアスコロ國民高等學校

と稱し、やがて全丁抹に普及せる國民高等學校の母校とはなつた。

然し丁抹は此の戦争によりて莫大の損失と打撃とを蒙り、全國民は失望の極に達し、悲歎やるせなき状態に陥つた。此の時に當り本校を中心として希望に充てる新らしき聲が丁抹全土に鳴り響き、一種の新哲學が普及せられたのである。而して此の哲學は農村地方に教育が一般的にして實際的、且つ平民主義とならざるべからざる事、及び將來の丁抹の防禦は、神と家庭と國土の愛を基礎としたる廣汎なる知識の上に建設せねばならぬといふ事を教へた。此の新哲學の始唱者は實にビショップ・ニコライ・フレデリック・セヴィリン・グランドウィツヒであつた。氏はクリステン・コールド氏等の補助を得て、上述の國民學校を創立したのだが、小學校も亦此の感化を受け、新時代の要求に適應せんことを努むるに至りし程其の反響が著しかつた。一般國民も亦此の新哲學に耳を傾け、専心之が運用に努力した。此の新鮮なる英氣は、單に學校といふ雰圍氣中に止らず、社會萬般の事象に至る迄其影響を及ぼし、エイ・エム・ダルガス氏及び



氏の共力者の如きは皆此の靈氣に感奮してジュットランド荒蕪地の植林、沼地の排水、高原の灌漑等の大事業を開始したのである。其の結果として戦争の爲めに亡失せる耕地と同大の耕地を一代のうちに挽回するに至つた。又シイ・エフ・テイートゲン氏は商工業組織改造運動の主唱者となり、次いでエツンド・ヒョウグスプロ氏は有志と謀り、共同購買、共同販賣の偉大なる計畫に殆んど全部の農民を誘引した。此の組合は今日全世界の嫉視、驚異の中心となつて居る。茲に於てか國民繁榮の新世纪を劃したが、此の革新に科學的農業が最も重要な經濟的素因であつた。實に丁抹に於ける輸出額の八割八分は農産物で、農園生産物以外の製品は僅かに八分、漁業は關するもの漸く二分に過ぎないのである。農民の自覺が如何に一國富強の因をなすかは、此の事實に徴して明かであらう。

## 第二章 内地開拓の努力

### Ⅱ 第一節 丁抹復興は國富の保護と増殖による Ⅱ

前章に於ては一般に丁抹農業改革の歴史を述べ、且つ此の大事業には當國の比類なき學校制度が與つて力ありし事を指摘した。本章に於ては長い間不毛にして開拓の見込なしと思惟せられし數百平方哩の荒蕪地が漸次開拓せられ、文明の餘澤を受くるに至りし此の卓越せる企圖、並びに堅忍不拔克く其の目的を貫徹せる偉大なる精神に就いて稍々詳細に説述する必要があるであらう。

戰敗の結果一八六四年にスレスヴィツヒとホルスタイン地方が遂に敵手に渡された時、分割された祖國をば愛國心に燃ゆる人々は、今や未開拓に屬する尺地と雖も耕耘して其の地積の損失をば挽回せざるべからずと絶叫するに至つた。換言すればたとへ



分割せられたる地積は挽回し得なくとも、若し内地の荒蕪地、沼澤等を開拓し、沙丘を善用して、國人の住宅又は糧食の供給地たらしむる事を得ば、即ち之によりて償ひを得べしと考へたのであつた。而も此の期待は決して欺かれなかつた。即ち其後半世紀の間は何等國家の爲めになど、廣言はしなかつたが、子孫の爲めに熟慮して能率高く事業を遂行した。然し此の自己と子孫との爲めに働いた事は、先づ野に行き自己の出来る限りを爲した爲め、結局國家の大利益と一致したのであつた。丁抹全土に於ける有爲の人々は、何れも如上の計畫に對して、彼等の持てる凡ての時間も財産も提供した。而して遂に此等の人々はこの大偉業を成就した。彼等は土壤を改造し、同時に後人をして土地の神聖なること、及び土地は斯くの如く取扱はざるべからざること、を教へた。此の大眞理は漸次民間に流布せられ、國民の根本的富源は土壤より來らざるべからざる事を教へた。此の富を保護し、之を増殖する事は、全國民の神聖なる義務であり、且つ特權であるとの信念を持たしむるに至つた。斯くて四十年前迄は、

全く荒れ果てたる一大原野なりし處も、今や全く鬱蒼たる森林と變じ、肥沃なる牧場と化して、而も其中央に榮譽ある此等偉人の記念碑が建設せられて居る。嗚呼、何人か斯かる記念碑を大戦争の記念碑と交換せん事を欲するものがあらうぞ。

## || 第二節 往時に於ける丁抹本土の荒蕪地 ||

丁抹開拓作業開始前に於けるジュットランド即ち丁抹本土は、沙漠や、沼澤、さては不毛の荒蕪地によつて蔽はれ、沃地は僅かに點々として散見するに過ぎなかつた。殊に峽江灣入し居る地方の如きは、全く土地の耕作すらも覺束なかつた。唯だ全半島の東部三つ一位の地方のみが、荒蕪地を吹き晒す風を相當に防禦し得て、多少地味肥沃の土壤であつた。

然し乍ら、此丁抹本土は、昔から風荒き凋萎瘠瘦の地方ではなかつた。確かに今より二三千年以前には、石器時代及び青銅時代に屬する人々が、此の地に繁榮して居た事



は次の事實によつて證明される。即ち其時代の墓塚や、戦時平時各種作業の痕跡等は、全土を通じて残つて居る。當時此荒蕪地は樅や檜の森林にて蔽はれ、初代の種族は茲に住居を営み、茲に狩獵し、茲に耕耘し、或は牛羊を飼育した。其後此等の種族は漸次亡滅して了つたが、石や土壤の塚は當時の歴史を永遠に傳へん爲めに残つて居る。斯くて文明の過程は一時石器時代の人々によりて破壊せられたが、其の後基督教文明は丁抹の内部にまで及んで、教會は古代の墳墓に接近したる處にまで建設さるゝやうになつた。が、併し此の丁抹本土は數世紀を通じて戦争の巷と化した。即ち獨逸人と丁抹人とは殺傷無算なる争鬪を續け、丁抹内地は各會長等が領土掠奪の内亂を續けた。斯くて國民が塗炭の苦しみに陥り、疲弊の極に達せし時、恰も恐るべきペスト病が丁抹全土に蔓延した。此の猛烈なる病魔の大打撃は、遂に全土の面目を一變した。即ちさしも盛なりし都市は何處にか消えて人影を見ず、原野は荒るゝが儘に放任され、雜草木は簇生して人力を加ふるの餘地もない程になつて了つた。曾て繁榮を極めた高壯の建築も

僅かに漠然たる輪郭や、又は墻壁等が荒土の下から發掘さるゝのみであつた。斯く不幸なりし丁抹は、ペスト病によりて人畜を失ひ、更に無残なる風と火と水は遺憾なく自然物をも破壊した。即ち猛烈なる西風は全土を吹きまくりて樹木を荒廢せしめ、目前の利のみに聴く、思慮淺き人々は、徒らに森林を亂伐して植林を怠つた。野生の雜草は生き残つた樹の根の周圍に生ひ茂つて、此等の樹木を凋落せしめた。斯くて有用植物並に穀類は、漸次其の影を消失し、荒廢の呪ひは丁抹全土に及んだ。爾來數世紀の間、全國的の此荒廢地を恢復せんとするは愚ろか、顧みる者さへなかつた。斯くて全土は盜賊、又は野獸の住家とは一變してしまつたのである。

### || 第三節 最初の開拓計畫 ||

十八世紀を通じて保守主義の愛國者は、此の荒廢地に數回の攻撃を試みた。然し、其の事業は餘りに未熟にして困難なる事を發見した。是等の經驗中最も興味あり且つ高



價なりし事は、一千七百五十九年に一千人の獨逸植民者を招聘した事である。即ち此等の植民は土地を開拓して、施肥、植林、排水、灌溉等に適するやう充分の努力をなすべき義務を負うて居つた。然し當地は氣候悪しくして健康に害あり、且つ土地は如何程人力を盡すも何等目醒しき收穫を得る事が出来なかつたが爲めに、植民等は漸次失望して、或は本國に歸還し、又は一層都合よき丁抹内の他地方へと移住した。遂に丁抹政府は一千七百九十年に一層研究して、植林に系統的實驗を試みた。然し乍ら、何人も如何に土壤を取扱ひ、如何なる種類の植物が斯かる土地に適應すべきかを知らなかつたが爲めに、此の計畫も再び失敗に歸した。

十九世紀の前半紀中ステインセン・ブリチャーといふ丁抹の一詩人は、獵銃と獵犬とを従へて荒蕪地の内部を巡歴した。其の當時、氏は一個の人影だに見ることなくて數哩を歩む事が出来、雲雀と共に唯一人、如何にせば此の丁抹を慘憺たる荒蕪地から脱して、再び繁榮せる地方と化せしむべきかの空想に耽る事が出来た。氏が一千八百四

十八年に死したる際、此の荒蕪地物語は殆んど完成して居つた。其後愛國心に充たされたる新人等は、當時最も必要とする最近科學に精通せるイー・エム・ダルガス氏を長として熟慮ある開拓を試みた。此の方法に對しては如何に猛惡なる雜草木も、遂に抵抗することが出来なかつた。

#### || 第四節 ダルガス氏と丁抹ヒーザー組合 ||

一千八百六十六年の三月、イー・エム・ダルガス大佐並に國民精神に充ちたる小團體は（此團體中にはモーリア・ベタスン・ドリニューセン並にモールビル氏などを擧ぐる必要がある）丁抹ヒーザー組合を組織した。

實に此の組合の唯一の目的は丁抹全土に平和の作業を通じ、最近の戦争にて屈辱的分割により蒙れる祖國の損失をば購はんとするにあつた。此の絶大なる企業に對しては、個人的の利益などは毫も顧みる事なく、全く献身的に地積征服に奉仕したのであつ



た。而して若し此の平和戦に成功せば、優に全國耕地の五分ノ一を増加し得る譯であつた。

著者が本書を編纂しつゝ、ありし當時は、本土内に六千五百の組合員を有し、年々國家及び個人的財團より四拾五萬クローナーの補助金が流通されて居つた。此の作業は頗る多方面のものであつて、即ち第一部は植林に力をそゝぎ、第二部は施肥、石灰、肥料、並びに本來の耕作によつて地味の豊饒を圖り、第三部は沼澤の排水、河川の治水工事並に泥炭産業の發展に従事した。此の組合は組合自身の名義の下に七千ヘクタール（一ヘクターは我が一町二十五歩にして一萬平方米に當る）の植民地を有し、且つ私有地の七萬三千ヘクターの開拓を監督して居つた。又無數の主要なる農事試験場が設立され、何人にも土地開拓の事業に援助を願ふ事が出来るやうな組織になつて居た。此組合が一千八百六十年代に組織された時には未だ丁抹本土のみにも二千〇六十五平方哩の荒蕪地、三百六十五平方哩の沼、二百平方哩の沙丘があつた。然るに一千八百

九十六年には二百七十五平方哩の荒蕪地と百五十平方哩の沼、並に百四十二平方哩の沙丘に減少した。其の間僅か三十年にして、殆んど丁抹全土の半分は開拓された。其進歩の道程は實に著しといふべきである。其後は一層急速に發展し、數年後に於てダलगラス氏が死亡の際にしては、在來過まれる原則の下に支配され居りし丁抹本土及び諸島（面積二千五百平方哩）は全く開拓されて、而も多くの森林、平野、牧場及び新産業地（海軍需要品、木材より製する炭化水素及び木材等）と變じた。丁抹農村發達が世界の驚異となつたのも實に故あるかなである。

## || 第五節 荒蕪地の再植林 ||

丁抹人の植林事業は他國民の追従を許さない堅忍不拔の精神を以て之を遂行したものである。丁抹植林に最も適する樹木は赤樅であると知られて居た。然し乍ら、赤樅は開拓したての荒蕪地には容易に成長しなかつた。それ故最初は先づ他の種類の樹木を



植ゑつけて以て縦植林の第一階梯とせねばならぬ。而して山樅は凡ての常緑樹中最も丈夫なもので、沙地にも又酸性の土壤にも成長するので、之を利用する事を考へた。而も其の手續は極めて簡單である。先づ荒蕪地の土壤を發掘し、次に第二回の耕耘をする、之れは土壤に空氣に接する機會を與へるもので、空氣中の窒素を利用せしむる爲である。全土は徹底的に獨國ハノーバ人の使用する土壤開墾機により底土まで發掘する、此時に於て其表面に施肥する事は甚だ望ましい、此れ土壤の酸性を中和する爲めである。實に此手續は丁抹の多くの土地に於て實施され、且つ成功の要素であつた。斯くて是等の手續が終れば植林開始の準備は出來たのである。開拓當初には赤樅を全土に植ゑるのが習慣であつた、然し其後數年にして此の赤樅は發達を停止して、何等成長の徴候を表はさなくなる。乃ち赤樅は或理由の下に彼等を繁茂せしむるに必要な窒素の成分を大氣中及び土壤より吸收する力を持たなくなるといふ事が發見された。茲に於て著しく窒素採取の能力を有するフランス種の間樅と混合して植林を試みた。其の結

果は赤樅に新生命を注入する事が實驗された。そこで將に枯渴せんとした植林は再び綠滴たる森林と變化した。而して根毛研究の結果、山樅の毛根に蔭生するバクテリアが赤樅の毛根にも蔭生する事が發見された。然し赤樅のみを植ゑたのでは幾年を経るも見出す事は出來なかつた。されど山樅は赤樅に比較して其の成長は實に著しく漸次赤樅を壓倒せんとする模様を示した。次いで彼等の間には、若しも山栽を裁伐すれば此の赤樅が成長を續けるならんとの疑問が起り、相當の實驗の後ちに此の疑問の正當なる事が證明された。即ち赤樅は最初保母木として其の助けを借りたる山樅の援助なしに單獨に成長する事が出來た。そして今は赤樅が成長して繁茂する徴候を示して來ると山樅を伐採するのが習慣となつた。然し節約利用を主義として居る丁抹人は決して伐採した木材を徒らに消費することを許さない。何れも海軍々需品として木材、炭化水素、燃料又は炭鑛山の支柱及び一般の柱や材とそれ〴〵其の使途の能率を完全に發揮する様利用して居る。



一千八百六十二年に於ては丁抹の森林面積は二百八十八平方哩であつた。然るに原著者訪問の當時に於ては、密生山林のみにも已に七百〇二平方哩に擴大して居つた。其後荒蕪地の周邊には風よけとして山樅の垣並に強壯なるシトカ樅が植ゑられた。此等の樹木は荒蕪地の表面を連絡的に被蔽する上に役立つた。多分數年を出でずして、開拓されて居る荒蕪地は何れも善良なる沃土と變化してしまふであらう。更に面白き事實はアメリカに於て丁抹アメリカ人の協會が丁抹の僅かに残れる荒蕪地方を買ひ、子孫の計をなす爲め其の開拓の資金を募集した事である。此の感情の一ひらめきは、取りも直さず、丁抹人自身等も荒蕪地と戦ふ苦心は其の終局に近けりと感じ居る事を示すものである。

## 第六節 水位の調整による開拓

前章に於て全丁抹は海面上僅か數尺に過ぎない事を述べたが、斯く低地なる爲め河

水の流れ頗る遅緩にして、其の紆曲甚だしく、半島及び島嶼には多くの湖、沼、澤等が散在して居る。されば河流を眞直にし、且つ科學を應用して低地の周邊並に沼澤等を耕作に利用し得るやう開拓せんと、水位の調整を企圖せる丁抹ヒーザー組合の事業は、實に目覺ましい大事業であつた。此の事業は諸島嶼並に小半島部をも包含する遠大の事業である。

從來毎年の洪水は河流沿岸の收穫を大に損失する原因であつた。此の事情を救はんが爲めに、上述の組合は水位を調整することに依つて、百十二個所の乾拓事業を完成した。之れによつて直接五萬四千四百六十エーカーの優秀なる低地開墾を成就した。即ち河底を眞直にし、其の放水を速かならしめ、又は運河を深くする事によりて水位を低くしたのである。一般の標準としては、近接する土地の表面より三呎乃至五呎を低下せんとことをつとめた。是れ表面蒸發の過程及び毛細管現象等の科學的研究に基いて、其理法を應用したものである。又乾燥期に於ては水面の餘りに降下せん事を防ぐ爲めに



適當なる處に貯水池を設けて居る。

斯かる地上の新征服に對しては全國を擧げて喜んだ。スカルス川即ち丁抹人の呼ぶスカルサー川が此の方法によりて數年前に調整せられたる時、當時の新聞は其の社説の劈頭に於て次の如く述べて居る。

「吾人に最も愉快なる事業は、吾人が永久に我が國境内に新領土獲得の記録を残し得たことである。即ち茫漠たる荒廢地は今や收穫多き沃土と化し、無蓋の水溜又は沼澤は牧場或は耕作し得べき沃地と變じた。是れ即ち自國內にて將來家庭を保ち、日常の食物を見出し得る事を意味するものである。斯かる領土の増殖はスカルサー川の進路を調整したる結果最近二年の間に完成したるものである。」

此小川はランダーズに近きツーシング湖に源を發して、約四十五哩の流域を紆曲し、リンフォールド灣の一部に注いで居る。此の計畫の方法は、先づ川を堰き止め、河床を浚深して之を深くし、無用の紆曲を切斷した。此の如くして延長は殆んど十哩も短縮

せられ、水位は二呎乃至五呎を低下せしめられた。川幅は溝渠に狹められ二十五呎より五十呎に調節され、深さは五呎或は八呎となつた。

其の結果一萬四千五百エーカーの土地が開拓せられ、地價は少くとも四百萬クローナーの増額を來した。丁抹の他の部分に於る低地は、ミシシッピー川の堤防によりて洪水を防禦して居る。此種事業にして最近に續行し居る計畫は、海岸に數哩の防波堤を建設して、北海の一部より丁抹の南西部なるリーベ地方にかけ、往時より潮の干満によりて荒廢せしめられたる莫大の牧場を奪ひ還さんとする恐るべき計畫である。而も此の如き事業は假令大海の漲る怒濤が其の奪取を拒否するとも、人間の斷えざる勇氣努力に防守されつゝ著々成功するであらう。

## || 第七節 灌溉と排水 ||

二百二十五哩の灌溉溝―數年間の作業―とは、内地曠原住民の心中深く刻銘せられ



た考へであつた。而も何時しか幾萬エーカーの荒蕪地は大沃地に變化して彼等の希望は達せられてゐた。著者は往時の荒蕪地が驚くべき短年月にして美はしき牧場、原野、森林と變化したるヘルニングに近きヘルヴィッヒの開拓状態を視察したが、殆ど總ての灌漑は之を上送するに重力作用を應用し、(譯者の知人フランク・ライト氏は此の原理を應用して自邸に於る高所の池に水を輸送して居た)又或る所にては水車、風車又は蒸氣機關等にて送水して居た。時には沼池乾拓の排水を直ちに曠原の灌漑に利用して居る聰明なる設備も見た。自然の排水口を有せざる沼澤は、組織立てた大装置の風車や、蒸氣、又は石油機關の設備によりて、其の乾燥を謀つて居る。

## || 第八節 土壤構成の事業 ||

低地の排水、又は内地曠原の灌漑は土地開拓過程の第一歩に過ぎない、一層驚嘆すべき過程は土壤構成の事業である。舊式の惡弊は須らく排除せざるべからずとは、果して

何を意味するか。之れ即ち低地に於ける酸性土壤を中和し、此處に缺乏せる土壤成分を附加し、以て耕作に適應せしむるに必要な取扱ひをなさざるべからずといふにある。一般に土地高燥にして涸渴せる處は之を肥沃の土壤として使用するには、幾多の必要にして缺乏せる成分を補はねばならぬ。即ち低地の土壤は概ね窒素分は豊富なるも苛性加里や燐灰分に乏しきもの多き故、丁抹人は此の缺陷を補はんが爲めに獨逸の加里鑛山より前者を輸入し、又フロリダ州の燐鑛層より後者の供給を仰いで居る。牛舎肥料類は一切セメント圍ひの中に注意して保存せられ、液肥は地下の水槽中に保存せられて居る。液肥は適當なる時期に於て汲みとり、牧場や耕地に施肥せられるのであるが、彼等は一滴の損失だもなからんやう綿密なる注意を拂つて居る。

又泥灰土や石灰分がなくては荒蕪地は眞に耕作し得べき土壤と成り難い。故に荒蕪地方の農民も泥灰岩層地方に住む人は誠に幸福であるが、不幸にも其岩層の性質劣悪なるか、又は必要成分の量に於て甚だしく缺乏せる地方に住せんか、其人は生漕を通じ



殆ど繁榮し能はぬ状態にあるのである。故に（荒蕪地）組合、及び同種の組合にては所謂泥灰層探求者なる専門家を雇備して、新地層発見の爲めに専心努力せしめて居る。著者が嘗て此の荒蕪地方を旅行せし際、長き粘土螺錐を引き抽きて非常に興奮して居る一團の人々に邂逅した。是れ實に泥灰層探求者の一群であつて、一人は土地より抜き上げたる鮮かな粘土の上に酸の溶液數滴を滴下した。注視者は一齊に「泡が出た、有難や！有難や！」と歡呼した。然り、此實驗に於て若し泥土より泡を生ずるならば之れ泥灰土の證である。換言すれば土壤施肥に費用を要せぬ事を意味するものである。上述せるヒーザー組合にては一千八百以上の泥灰土埋藏地を發見した。而して政府も極めて低廉なる運賃にて國有鐵道を利用し、各地に之を運搬せしめて居る。又同組合は移動軌道を有し、數百の運搬車を所有し、其の動力には蒸氣、又は石油機關、或は馬力等を利用して居る。若し將に開拓されんとする荒蕪地にして、而も其附近に泥灰土を有せざる事を發見する際は、直ちに移動狹軌鐵道を敷設して農民に新生命を與ふる原料

が即時使用し得る様に準備されるのである。島嶼の土壤は幾代となく耕耘され來りしもの故、本土に於ける土壤に比し一層地味肥沃なるに拘はらず、やはり多數の土壤試驗所が設立せられて居る。各人は皆此の科學的補助機關を利用する事を知り、速かに自己所有地に如何なる成分が必要なるかを習得する様になつて居る。而して一般の丁抹人は「土壤は神聖なり」との眞義を了解して居る。故に土壤より收穫を得れば、少くとも取つた丈けの成分は之を挽回せしむる丈けの努力を惜しまない。且つ丁抹に於ては祖先より受けたる土地は一層之を擴大し、益々豊饒なるものとなして子孫に譲る事が最上なる農民の義務と心得て居るのである。

## || 第九節 我國農民に對する教訓 ||

原著には米國農民に對する教訓を述べて居るが如何に譯書なりとも國情異なる米國民への教訓を譯述するの愚を學びたくない。僭越の誹を覺悟して此處には我國の農民



に對する教訓と題して、譯者の所感の一端を附記する事とする。抑も本書譯述の目的は之により幾分たりとも我が農村振興運動に貢献せしむる所あらしめたい至誠より出發したものであるが、讀者幸に譯者の意のある處を酌まれん事を望む。

丁抹國民共通の標語は「土壤は神聖なり、故に丁抹の全土を使用せよ、如何なる地積も濫用する勿れ、然も之を善く待遇せよ。」といふのである。我國は古來瑞穂國と呼ばれ、五風十雨自然の恩恵に浴し、丁抹の如き荒蕪地なく沙丘も少ない。滿韓を旅行して本土に入れば樂園に入るの感がある。假令物價の騰貴、人口の増殖著しきものあるにせよ、簡易生活に慣れ來れる國人には、未だ生活難のドン底の味は經驗されぬ。然れ共將來の我が國、將來の農民を考ふる時、我が國民が今にして覺醒する所なくんば必ずや近き將來に悔ゆるも詮なき悲境に呻吟するに至らざるを誰か保證し得ようぞ。我が農民は果して全土を利用し居るだらうか。北海道の曠原を見よ、森林を見よ、内地の山岳を尋ねよ、耕地を嚴密に視察せよ、沼池湖澤の空地を探せ、海濱沙丘の放任を見よ。米國

は不可である、加奈陀、濠洲已に邦人の行く手を塞いで居るではないか。ブラジルは行結構である、滿蒙發展不可ならず、然し先づ近きより遠きに及ぼすが順序である。吾人は先づ如上の内地を百方手を盡して開拓すべきである。其の爲には政府の農村電化施設も實行すべく、電氣灌漑法が容易に行はるれば山地よりも米穀、蔬菜、果實の收穫も得られよう。耕耘に多數の人手も省けるであらう。森林木材の運搬も容易にすることが出來よう。海岸地の沙丘利用も研究題目であり、海岸利用も大問題である。

濕地を埋めて開墾すべき部分も多かるべく、河流を灌漑に利用し、無用の湖沼を埋め立つるも必要なるべく、又更に進んではパーバンク氏の如く新果實を作る研究も必要である。一般に農民に限らず、我が國民は發明心に缺けて居る。所謂文化事業の一として邦人の獨創になるものあるか。汽車汽船を始め、電氣、瓦斯、飛行機、潜水艇、數へ上ぐるもの一として邦人の頭より出たものがないではないか。世界より各種の恩恵



を蒙つてこそ居れ、一として返済したものは無い。經濟的の負債も少くはあるまいが、此の精神的の負債は全國民が負擔せねばならぬ所である。我國から償却しつゝあるものは僅かに醫學界あるのみである。思うて茲に至れば譯者はペンを捨て、涙潸然たらざるを得ない。日本の特産物として誇り得るものは生絲である。せめて生絲の方面に於いて大発見はなきものか、一時評判になつた桑葉から生絲を取る實驗の如き必ず成功出來ぬものとは限らない。眞面目に人造絹絲を研究し一段進歩したものを發明する勇者はなきか。斯かる方面は吾々農民の領分でないかと答ふる人もあらん。然し、それが間違の根本と思ふ。自ら其の研究領土を狭め、舊慣より一步も外に出でまいとする所に進歩や發達は望み難い。斯くては一生涯屈辱の人生裡に沈吟して終らねばならぬ。丁抹の如く農民から會社の重役も出で、國務大臣も出づる迄に發展せしむべきだと思ふ。それには萬事につき研究と修養と發見の努力を惜しんではならない。生絲が見込なかつたら新果實の發見もよからう。パーバンク氏は幾多の新草花を造つて居る。種子無し乾

葡萄の如き、元はトムソンといふ人が工夫して其の種類を造つたものである。造物主となるといはゞ人或は狂人なりとせん。然し、生きた造物主は加州サンタロサに住んで居る。氏はバラに棘なく育つ事を教へ、シャポテンに滑かに生育する事を教へ、馬蹄薯に法外に大きく育つ様に教へ、種子無き大形櫻實を造つて居る。今や植物界のエヂスン王と呼ばれ、又加州の子供等は植物界の神と呼んで居る。我國に一の特産物を造つた丈でも其の効果は偉大なるものである。パーバンク氏の如き、一農業労働者で、寢るに室なく、温室に起臥して遂に病を得、隣人の與ふる一日一杯の牛乳で生命を繋いだ青年である。意志のある所道あり、生産上一錢の益あるものを發明するも其の影響は莫大である。穀類の種子の上に、肥料の研究の上に、土壤の改造の上に、養蠶器具の改善の上に、發明工夫の目を注ぎ、國富増進の上に貢献せよ。然らば自分は之により巨額の富を作ると共に、其の利益を國民に及ぼすであらう。丁抹農民が初め自己や子孫の爲に努力した事は、遂に國家の期待と一致して、國利益を發展したる事例に鑑み、吾人の活



動能率をば十全に發揮せねばならぬと思ふ。

### 第三章 丁抹農業制度に於る協同事業の勢力

#### || 第一節 概 説 ||

往時丁抹の領主の横柄、土地法の不公平、科學的訓練の缺乏等に煩悶し居りし農民が、翻然として科學的農業上の生産及び分配に其の宜しきを得、延いては經濟上政治上に於て國民の指導者たる地位を獲得し、更に進んで民族文明の代表者と成るに至れる事實は一大奇蹟ともいふべきである。然れ共此の民族、此の國民未來の發展を洞觀するを得る史的照光と、創造的思想と廣大深遠なる感情とを具へたるグランドウィッチの創定せる國民高等學校及び農村學校の感化勢力が無かつたならば、此の奇蹟的實現は望まれなかつたであらう。

歐洲各國には幾多の優秀なる農村學校は有るが、是くの如く其の制度、及び感化影



響のよく全國民に徹底し、且つ總ての階級の人を裨益せる制度に比肩し得るものはないであらう。此の國民高等學校は全國民に廣き一般的の修養を高調した。而も此修養たるや、自己又は地方の小局面の利益に踰踏する事なく、詩と理想と希望の時代を善用し、最も尊嚴なる感激の瞬時を正導して、人生の善美と國家の理想とに協へる積極的の意義ある生活を實現せしむるに至つたのである。其の結果として、眞に自己の爲めを考へて行動すると共に又た一般國人に對する強き同情を喚起した。此の修養が人々相互に信賴し、共同作業の爲めに奮闘する事を得しめ、且つ其の調和的發達を容易ならしめた。

## || 第二節 豫備階梯の遺憾なき徹底 ||

丁抹全體の農業的改革は是等聰明なる農民自身の手によつて完成された。勿論特殊教育を受けた科學者が此等の偉大なる改革に貢献したことは事實であるが、彼等は自

身も農業階級に屬して居るので、唯其の代表者として農村學校、又は實驗場、或は農事試験場に於て新發見の道程を科學的に調査研究し、以て全國農業改善に資せしめんと努力したのである。故にセイシイー・ブリュー・ヘル氏は「都市及び田園に於ける丁抹人の生活」といふ本の中に

「何人も丁抹農民のあらゆる方面に實際的にして餘蘊なきまで細密なる調査により、準備的作業が至極徹底し居るに驚かされる。各種の方面にて調査されたる試験の比較表を、殆ど凡ての農園及び牛乳搾取所の各係員に分配し、以て耕作の方法に、家畜の種類に、其の使用機械に、或は種子の種類に關し、眞の効果を擧げ得るやうに警戒や奨勵を怠らない。斯くて農民をして舊式の慣例的過程を改善し、科學的基礎に立脚せしむる事を得しめた。實に丁抹の農民は唯だ彼等の爲しつゝ、ある過程を知るのみならず、何故に其の過程を採用するかの理由を理解して居る。」と述べて居る。

(譯者の感想)



我が國の農業教育に於ても一層廣く科學を利用したる研究により、土壤より如何にして優秀なる收穫を得べきか、荒廢せんとする舊耕地を如何にして常に處女地の如く肥沃状態に保つべきか、米國バーバンク氏の研究の如く如何なる優良種類の作物を繁殖せしむべきか等、其研究すべき方面は少くないと思ふが。更に進んで自己の收穫物を如何にして市場に輸送すべきか、其販賣方法は如何にすべきか迄突入して研究するに非ずんば、如何に政府の援助によりて市價を維持するも、其の益する所は大地主又は商人の懐を肥すに過ぎぬ結果に陥る恐れがある。されば學校に於ても此方面の準備教育が必要であると思ふ。米國に於ては徹底と迄は行かぬが、此方面の教育の緒は既に開かれて居る。之が爲には成功の根本要件たる協同一致の訓練が必要なる事は言ふ迄もないが、脊に腹は代へられない、農民各自が此の事態を正視して自己發展の爲め、農事改善の爲め、一大躍進が必要であると思ふ。我國農民は勤勞の點に於ては決して丁抹農民に劣るまい、米國農民の上にある事は事實である。然し

其の缺くる處は準備的訓練の缺陷、科學應用の不足、共同一致の精神の缺乏、組合組織の幼稚、機械利用の不徹底、此等が農民發展の大障害を爲して居ると思ふ。海外植民地に於て邦人の不成功に終るも主として此等の缺陷に基く事は其事例一にして盡きないのである。現代農業教育家に日本のグランドウィッチを要求する事切なるものがある。第三節以下にて、丁抹農村が共同的計畫の方面にて如何に成功したるかを知らる事は大いに玉を瑳く参考となるであらう。

### || 第三節 購買及び販賣組合 ||

丁抹の協同購買組合制度は英國のローチデイル案と髣髴たるものがある。然し英國の制度は殆んど全部都市に限られて居るが、丁抹に於ては全く正反對である。二十三萬人の組合員中僅かに二分の人々を除いた外は全部農村に住んで居る。此れ即ち實際上各農家の一つ或は一つ以上の斯かる組合に連絡を持つて居る事を意味して居る。若し



も丁抹の農民が斯かる組織的の組合より直接に肥料、種子、機械並に日用品を買はな  
いとすれば單に仲介商人の懐を肥すに過ぎない。又た斯かる制度は發達しなかつたで  
あらう。此等の組合は其の數頗る多く或は大きく或は小さい。其最も大いなる組合は  
丁抹の共同組合の爲に出來た聯合共同組合で、組合の協力者一萬三千人を越え、年々千  
六百萬弗前後の貨物を販賣した。次に大なるはジュテツシ共同組合で、一千八百十三年  
に三萬四千の會員を有し、取扱貨物の總価格は七百五十萬弗に及んだ。第三は肥料購  
買に對する丁抹共同組合で、六百七十の支店と共に獨逸、合衆國、南アメリカ等より同  
時期の間（一八一三年）に四千七百萬疋の化學肥料と礦物肥料とを購入した。

丁抹に於ける總ての斯かる組合の成功は、彼等の實際的組織並に管理方法の宜しき  
と及び一般的努力とに歸すべきものである。彼等は總て眞に共同的である。此れは主  
として下に述べんとするマンザオート（一人一票主義）の原則が大いに與つて力ある  
ものである。

#### || 第四節 協同牛乳搾取場の地位 ||

全丁抹協同牛乳搾取場の事業は相互信賴といふ基礎の上に建設されてゐる。農民が  
一の牛乳搾取場を組織する時には、各員皆共に、或る特定の年限間特定の牛乳を年々提  
供する事を誓約する。此の誓約たるや斷じて破約せられる事がない。此の組合は組合の  
責任に數種の調印をなしたる各組員には特定額を信用貸とするのである。勿論組合  
組織が成立したる際には監督委員を選任して委員會を設け、此の委員會は更に組合長、  
及びバター製造監督者を選擧する。組合の事業は眞の協同事業であつて徹底的平等主  
義を採り、其の運用方法には一人一票主義の原則を遵守して居る。換言すれば各員は  
提供牛乳の多寡、負債額の大小に拘はらず、孰れも一人一票の権利を持つのである。組  
合員は半個月毎に提供牛乳に對する支拂手形を渡される、半期の利益配當は純利益總  
額が按分比例により配當される。特定年限經過後は（一般に二十八年以下である）蓄積



せられた全財産は最初の各目の負擔額に應じて各株主に分配されるか、然らずんば復第二期の二十八年間に對する契約を結び、其の事業を續行するのであつて、復た逐次上述の如く繰り返して今日に及んで居る。

著者の視察したる此の種の牛乳搾取場の中で、最も代表的といふ事は出來ないが、最大の組合はジェーランドの中心地に近きトリフオウム牛乳搾取場及びバター製造場であつた。此の組合は非常に大なる設備を有し、完全に經營され、牛乳搾取場として必要なる機械器具は何れも多くも改善、新工夫を凝らしたものであつた。此のトリフオウム牛乳搾取場は乳牛一萬二千頭より搾取せる牛乳を集め、少くも一箇年二千八百五十萬瓩の牛乳を取扱ひ、(著者訪問當時)五十以上の各種のバター四萬個を貯藏室に貯へてあつた。

此等のバターを一列に連ぬる時は十三哩以上の長さになるといふ事だけにても、如何に此搾取場設備の偉大なるかを想像する事が出来る。又此バター製造以外に此搾取

場より特別に壘詰したる牛乳は、世界的名聲を博せるコペンハーゲン牛乳供給會社に送られ、此處より南は伯林の遠きに至るまで幼児用最良牛乳として他の組合に供給され、其發造量は日々約五千封に達して居る。

次にスウィスチーズ製作を視察するのも頗る興味があつた。此處のチーズは百六十封より百八十封の重量を有する巨大なるもので、一個のチーズを作らんが爲めには少くとも一千九百封の牛乳を使用するのである。此等のチーズを製造するに用ひた牛乳の水分は脂肪分離機を通過せしめられて、幾分なりとも残り居る脂肪を取り去る様にしてある。而も其の分量は決して少くはない。此等の殘留品を集めて二等バターを製造する。斯くて残れる水分は再び分離機に掛けられてスカンデナビヤ・ミセオストと稱する褐色にして甘味を有するチーズに製される。即ち大釜の中に第一回のチーズを作つて残つた水を投じて加熱し、攪拌して、暫時蒸發せしめると、遂に甘く調味せられた濃き褐色の軟塊が生じて來る。此處に於てか此の軟塊を型に入れてチーズの形と



するのである。

是れ丁抹人が何物をも徒費せざるやう如何に細心の注意を萬事に拂ひ居るかの一例を示すものである。此の組合の農夫は貯蓄銀行より三分五厘の利率を以て資金を借りて居た。而も余の訪問時に於ては、此の組合は百萬クローナーの資本を有して居た。彼等の豫定は此の事業の創立時より二十年間に元金を取り戻すといふ事であつた。其の後此の設備は創立者のものと成り、自由に使用し得べきやうに成るのである。丁抹の牛乳搾取場の歴史に就いて調査するに、此等の組織者が相當の毎半期の利益配當を受けないといふ例が無い。其の上此の搾取場に提供する牛乳の代は市場の價格より遙か高價に賣捌いて居る。そのみならず、大抵の搾取場は二十年以内に總ての債權の拘束から逃れることが出来たのである。斯くて彼等の最初の冒險、又は困難は潤澤に報いられる譯である。

一千九百〇九年には全國乳牛の數は百二十八萬二千二百五十七頭であつて、内八割

三分即ち百〇五萬九千九百五十六頭は上述の協同牛乳搾取場に牛乳を送つて居た。同年中の牛乳生産の總額は三十四億萬疋で、一頭平均二千五百七十疋に相當する。一般に牛乳生産は大なる牧場に於てよりも、小なる牧場に於て飼育せられる乳牛の方が遙かに能率的に多量の牛乳を提供して居る。

牛乳が此等搾取場に廻送されるには、非常に嚴重なる規則の下に行はれる。牛乳搾取過程の間細心の注意を拂はねばならぬ事、及び牛乳は絶対に清潔に取扱はるべき事、適當なる方法で冷却し置くべき事等に關する規定が嚴守されて居る。支配人は少しでも不純潔、又は不清潔の徴候を示すものは皆不合格とする。總ての牛乳は黴菌撲滅を確實ならしむる爲め完全に消毒されるのである。

## || 第五節 激増せる共營燻肉(ベーコン)工場 ||

牛乳搾取事業に次いで重要な事業の一はベーコンの生産である。燻肉製造場も一



般に一人一票主義の下に農民により組織せられる。此の組織は牛乳搾取場の組織と殆ど同様であつて、年會、又は半年會にて同期中に獲得したる利益は凡て組合員より提供したる豚の重量に従つて分配される。此等の製造場は往々各組合員に對して常に市場の最高價格を支拂ふのみならず、利益分配の形式にて組合の生産高一封に對し約一仙の割合を以て優良品獎勵金を與へる。總て是等のものは成立當初の負債額償却の爲に一部を控除した以外の利益分配である。此等の組合にて製造された最上の燻肉は、殆んど全部英國に輸出されるのであるが、同英國に於ては丁抹の検査證があるものは、何等の疑をさしはさむ事なく賣買せられて居る。此れ如何に丁抹の科學的組織の信用厚きかを證するに足るものである。

著者が訪問した燻肉製造場の代表的ものはズイーランドのハスレーブに存在して居るものであつた。組合員數は一千三百五十人で、十哩或は十二哩の半徑の土地より豚の供給を仰いで居た。會員は一年に數百頭の豚を提供する大地主より下は二三頭の

みを提供する小作人まで及んで居る。何人にも生産額の全部、又は幾割かを此の燻肉組合に提供せんとを誓約さへすれば、直ちに此の組合員中の資金を有する者から流用して居る。然し多額の資金を流用するからといつても、僅かに二頭の豚を提供する小株主以上に組合の支配權を有する譯ではない。大資本家が漸次勢力を得て、小資本家を除外する如き舊式の組合組織では、徹底的に組合を發達せしむることは出来ない。上述の組合組織の如きものが適用されば、此の種の組合は萬事好都合となり、著しき發展を來すであらう。

ハスレーブ農民が取扱ひ居る豚の實數は一千九百十四年には二萬四千四百三十三頭であつた。斯くて食料品生産物として百八十四萬八千五百八十二クロイナアの賣上高を得た。此等の大部分は何れも英國市場に向ふものである。組合員は此等の生産物に對して最高の市價を支拂はれ、其の上一萬九千三百二十六クロイナアの利益が分配された。然も約四千クロイナーは資本銷却の爲めに控除された殘額であるといふ事を知



つては、其の好成績に驚かないものはないであらう。此の製造所は又た組合員の爲に、無手数料にて十七萬封の鶏卵を販賣し、九萬八千クローナーの賣上高を得て居る。

丁抹のベーコン製造用の豚は皮ぐるみにて百八十封を越えてはならぬ規約である。ハスレーブ製造所にては一ヶ年間の平均が一頭につき百八十三封二分に當つて居る。又一頭につき百二十五封と百四十封との間にあるものに對しては、一封につき一仙の割で賞與金を支出して居る。検査は格別に嚴密であつて政府より教育され、任命されたる専門獸醫が此製造所の絶對的責任を持つて居る。輸出用の豚肉は無病完全なものゝみにて、少しの缺陷があつても不合格となる。此の製造所に於ては外見完全に見えて而も輸出不合格となるものが年々三百八十頭以上の多さに及んだ。就中、一千四頭は多少の病徴ありとして内地には差支なきも海外輸出には不可能を意味する青きスタンプが捺され、又二百七十八頭は特別の場合にのみ使用し得る意味の黒きスタンプを捺され、八十九頭は全然食用に不適當なりと宣告された。この國立養豚組合の規

約に従つて飼育され且つ嚴重なる検査を受けたる最上の豚のみがベーコンに使用されるといふことが海外に於て丁抹ベーコンの名聲を博した所以である。

## Ⅱ 第六節 鶏卵の輸出と科學の應用Ⅱ

鶏卵の輸出は三つの最も重要な丁抹農産物中の一である。全國の總ての男女とも鶏卵輸出組合の一に屬して居る。組合員と爲る時には各人はたゞ新鮮にして燭光試験に合格したもののゝみを提供するといふ嚴かなる誓約をせしめられる。而して若しも此の誓約を破りたる時は拘引されて嚴酷なる科料に處せられる。されば鶏卵集事務所には未だ嘗て不良品の集つた例が無いといふ。丁抹の鶏卵輸出業者は海外に於ては白色大形の卵が最も賞讃されると云ふ事を久しき以前より調査して知つて居た。されば養鶏中心地に於ては此の要求に應せんが爲め黒色ミノルカとレグホンの雜種を普及せしめんと努力して居る。鶏卵集事務所の各員は自分の番號或は標章を有し、事務所



も亦事務所の番號を持つて居る。此の集合事務所はコペンハーゲン、イスブエルグ、或は其の他の大いなる輸出中心地に集まつた卵を海外に輸出する。此處では鶏卵を大形形状色澤に應じ完全に分類し、十二個、又は二十個入りの裝飾せる箱の中に詰め、此れに商標を附して、英國の市場に輸送し、驚くべき高價で一流のホテル、又は上流家庭に販賣されるのである。實に此の事業は丁抹産の鶏卵は殆んど國內にて使用される事が無いといふ程盛んに發展して居る。斯くて國內消費の爲めには却つてフィンランド、スカンヂナビヤ、又はロシアより格安物を輸入するといふ状態である。換言すれば、輸出事業に成功して居るから國內産を輸出し、双方の運賃を差引いても猶且つ利益が遙かに大いなる事を示して居るのである。

如何にして丁抹製品が世界の市場を壓倒するかの理由を問ふならば、答は簡單である。曰く製品の絶對に優秀なる事、従つて一度是れを試みたものは再び之を使用せんとする引力がある事の外にはない。詳言すれば、其の品質は常に保證され、其の保證は

常に信賴するに足りるからである。例へばベーコン製品の場合に於ても、丁抹政府は政府派遣の獸醫をして如何なる種類の病氣を有するものに對しても輸出査證を與へしめないと云ふ事で其の一端を知るに足らう。國民の聲價、及び名譽は一に此等の産物に繋がれて居る、是れ丁抹農産物の海外に於て最高地位を占むる所以である。

## || 第七節 完全なる田圃の信用貸 ||

短期小作は近代農業の最大害毒の一なる事は往々論議される所である。多くの國に於て農村人口の減少する理由の一は、其地方の土壤に關して充分の知識を有する青年が土地購入の益々困難なるが爲め、其地方を退去せざるべからざるに至つて居る事である。此れ主として土地價格の騰貴、特に利率の高騰に基くものである。彼等の多くは小作人として其土地に残ればとて、満足の生涯を送るといふ事は殆ど不可能である。故に多くは有望なる仕事の指導者と爲る機會に富む都市へ移住するのである。されば



何れの國を問はず、強壯にして農業に興味を有する青年を農村に止めんが爲めに、政府は百万手を盡して彼等を土地所有者たらしむるやう適當の法策を講じなければならぬ。丁抹は今日までに農村信用貸の制度を敷いて、七萬五千以上の家族をして小土地所有者たらしめた。此の制度なかりせば此等のものは何れも都會の渦中に投入してしまつたのである。此の外に何人にも農園の大小に關せず、長期間最低利率にて資金を貸付ける制度を設けてある。此の制度に依り、農業者は其の所有地の最高能率を發揮せしむる事が出来るのである。

(譯者註)

現在の我國農村振興策としては完全なる此の種の制度を創定せねばならぬと思ふ。但し貸すだけでは駄目である。農村振興顧問官ともいふべき制度を定め、其の資金の利用法、簡易返済法、土壤改良法等の相談に應じ、希望の間に此の仕事を完成する農民を多からしむる事が何よりも必要である。火保問題の如きは中央政府に

近い處の事實であり、直接行動に出で、迄訴へ出づるから遅いとはいへ何とか解決もする。然し沈黙の間に天候と戦ひ、不景氣と戦ひ、失意と戦ひつゝ、來れる農民は有の儘の苦情を訴へ出ないのであるが、其實情を知る者は思はず暗涙にむせぶであらう。今にして農村安定の大國策を樹立するに非ずんば、振興は愚か、國家を擧げて不安の境に陥らしめぬものとも限らない。具眼の大教育家出でよ、達識の選良出でよ、眞に愛民の地方官出でよ、出で、農民の爲めに泣け、農民の爲に叫べ、斯くて農民の爲を謀り彼等の不安を一掃せよ。次節國家の小作人制度の如きは取つて以て範とすべきであらう。

## || 第八節 國家の小作人 ||

此の點に關しては丁抹人の小農増殖法案を簡單に考へる必要がある。誰れが此の法案を利用するか、又た如何に此の法案が運用されるか—



二十五歳以上の人にして五ヶ年間農業の経験を有し、其の人格に於て政府を満足せしむるに足る者は、何人と雖も一千九百〇九年の法律の下に、其の當時賣買市場に在る土地の一部を選択してよいのである。然し其の場所は三エーカー以上にして、其の農園には家畜及び其の他の設備も含んで居て価格は八千クローナーを限度とし大抵は六千五百クローナー以下なるを常として居る。此の買入金額の九割を借りることが出来、九十八年間に亘つて仕拂へば宜いのである。然も其の利率は年三分に過ぎず。希望者は出願順に配列されて居る。其の借金額は此の目的に對して生産價格の割合に應ずるやうになつて居る。

著者の視察當時政府は小作人に三分にて貸したる金に對し、政府は債權者に向つて實際は三分五厘を支拂つて居た。然し一般に此の五厘の差は多數國民に自己の所有地内にて安定の生活を営ましめ得る爲めには此位の政府の損失は徒費ではないと感じて居る。當時まで政府の貸した金額は二千五百萬弗で、低利に貸す爲め僅か一萬弗の損

失をなして居るだけである。

### || 第九節 丁抹の信用組合 ||

政府の資金供給を仰ぎ居る者は國家小作人と呼ばれて居る。今や此等の國家小作人は其數幾萬を以てかぞへて居るが、又た同時に自然小作人の稱を受け居る者も少くない。此等の小作人は直接國家より補助を仰いでは居ないが、全國に發展し居る信用組合より資金の融通を仰いで居る農夫である。此等の組合は所謂銀行ではなく多數農民の組合である。各自餘分の資本を提供して、非常に資金を必要とする人々の爲めに集合したる資金をば有意義に運用せんとする組合である。借用人は單に自己の所有する土地を抵當とする。茲に於てか組合は借用人に債券を發行する。斯くて此の債券は市場にて他の債券の如くに賣捌かれるのである。此等の負債は其の期間頗る長く、組合の最も重要なる十三の團體は負債額十六億一千七百萬クローナーで、豫備金六千六百



五十萬クローナーを有して、全額十七億六千四百二十萬クローナーの資金を運用して居る。

最後に信用組合制度の下に起る處の損失は至つて少額で、準備金は何れの場合に於ても此等の物を償ひて餘りある事を附記する必要があると思ふ。ゼニトスケープスターツ・クリディット・フォルニングといふ一つの信用組合のみが破産せざるを得なかつた。此の破産に對し、或る信用組合長は「此の如き破産は將來断じて起らないであらう。今や丁抹の信用組合は徹底的に組織改善せられ、凡ての責任を果して餘りあるやう非常に好成績の結果を來して居る。」と述べて居た。

|| 第十節 丁抹小作農と彼等の教訓 ||

次頁の表は一千九百二十二年中農園の大きさに従つて全丁抹を分類したものである。農民の全數は廿六萬八十三人で、其所有する農園の面積は八百十七萬七千六百六十九

廣	サ	數	全 面 積
7½	エーカー以下	116,614	239,604 エーカー
7½—11½	エーカー	16,938	159,832 エーカー
11½—22½	エーカー	28,992	473,598 エーカー
22½—33½	エーカー	17,723	496,952 エーカー
33½—67½	エーカー	35,257	1,752,121 エーカー
67½—155	エーカー	25,615	2,346,295 エーカー
155—270	エーカー	6,502	1,169,484 エーカー
270—540	エーカー	1,570	574,946 エーカー
540	エーカー以上	822	964,327 エーカー

エーカーであつて、一人當り平均農園面積は卅エーカー餘である。併乍ら此の計算より大地主の地積を減ずる時は其の平均數は著しく減少するであらう。

著者が此統計を茲に挿入した理由は近代の著しき傾向として大地主が其土地を開放し、各人に自身の田園に生存する機會を與へんが爲めに分讓しつゝある傾向が著しく發展して居るが爲めである。此氣運たるや、全然大地主自身が義侠的に起したるものにして、此等の大地主は農村振興運動の先驅者である。

丁抹小作人の生活は幾多の教訓に充ちて居る。下に掲げた一例はジェーランドのリングステッドといふ町から約三哩を隔てた處の農園所有者、ハンス・ニールセ



ン氏の實際生活の大略である。

著者は古風の四輪車に乗つて同氏の農園に到着した。其の馬はと見ると小型ではあるが頗る緊つた馬で、小さいアイスランダー種と大きいヂュテッシュユ栗毛馬との雜種の様に思はれた。途中の道路は丁抹至る所で見ると如き鉾蒲形にして、砂利を敷いて固め、兩側には開渠排水設備を施してあつた。リングステッド町の入口には協同ベーコン製造所があつた。ニールセン氏も此の組合員で、毎年二十幾頭の豚を提供して居るといふ。更に進んで吾々は小作人の爲めに役立たせるカレハーヴ學校を通過した。之は全國到る處に建設して、小作農民の爲めに成功せる耕作法に關する特殊問題を研究する目的を有する學校である。案内役を勤めし主人ニールセン氏は、氏等夫婦共同校に於いて短期課程を了つた事、及び後に至り居室の長椅子の上に飾れる二個の卒業證書をば非常に誇として話して居た。

農場に到達して農園を見渡せば、全農場は僅か七エーカーで、十分耕耘は行き届いて居るが寧ろ輕質土壤に見受けられた。住宅は道路よりは數百ヤードの奥に位し、其の道の兩側は土地を十分に利用せん爲、高幹なる櫻樹が植ゑられて、普通の陰を作る樹木は用ひられて居なかつた。此事も主人の細心の注意の進出と察せられて奥床しかつた。全農場が自分にとつて農業の實物教室であつた。何れも清潔に掃除が行き届き、何等目障りとなるものは一つも無い。住宅は四室で、簡易にして住み心地よく設備され、雇人を加へて家族五人が生活して居た。牛舎と住宅との間は厚き煉瓦の壁で區劃せられ、全建築何れも化粧漆喰で飾られ、屋根は草葺であつた。牛舎は三匹の美事な赤色ヒューン乳牛の一年中九ヶ月の居間である。此等の乳牛は漆喰塗の牛舎の内に全く満足して生活して居る様に思はれた。床はセメントで排水設備が床の中央より溝となつて屋外の地下の大水槽に導かれて居る。液肥は暫くの間此の槽中に貯へられ、必要に応じてクロバー牧場、又は耕地に撒布する迄貯蔵されて居る。又他にセメントを以て作れる堆肥貯藏室が設けられ、茲には牛舎や穀倉等より生ずる廢物を貯藏して置く。各種の



肥料を貯蔵する細心の注意について余の稱讚に對してニールセン氏は微笑を湛へて答へた、「然り足下の呼ぶが如く小事の注意である、然し之が吾々をして成功せしむる所以なのである。若しも眞の肥料が洗ひ流さるゝまゝに任せ置き、又原野に糞を撒き散らして置くならば我々丁抹人は立所に破産するであらう。」と。彼は書籍により米國農民生活の實情にも通じて居た。次に予の注意は乳牛にそゝがれた。乳牛の毎日の成績が牛舎の壁上の框内に記録されて居る。若しも乳牛の乳がバター又はミルク用の一定標準以下に少しにても下る事あれば、其の牛は速刻屠牛所に輸送されるのである。よれば丁抹の小作人の牛舎には、其の牛舎の主となるほど永い間飼育されるものなき事が明瞭になつた。

ミスター・ニールセンの牝牛の頭上に書かれてある記録によれば、此等三頭の乳は其の年の間に三萬九千九百五十二封の牛乳と、一千四百四十七封の牛酪を生産した事が知られる。豚舎は又た非常に興味ある場所であつた。其の當時十三匹の小豚が市場に送られようとして居た。是れ等の小豚は丁抹種の白豚で、非常に急速に生育し、蕃殖力盛で、ベーコン製造の爲めには最も適當したものだ。ニールセン氏は氏の豚が三ヶ月以上にならない中に共同屠殺所に送るといふ事を心から誇として居た。此等の豚は百三十封乃至百四十封(皮ぐるみ)以下であるから一封に付一仙づゝの追加賞與金を得る事が出来る。此等の小豚は砂糖と唐もろこしと燕麥とをひきたるものに細割せるクロバーの干草を加へたるものを以て飼育して居る。

此の他特別なる副業は林檎栽培、養鶏、養蜂等であつてこれも極力奨励されて居る。林檎生産は特に著しい。土地が頗る局限されて居るから九呎から十呎を離れて小型果樹が栽培せられてゐる。斯くの如くして一千九百〇八年に植ゑられたるモンクス・コールテンの樹は一千九百十二年には一千二百七十四クローナーを生産した。換言すれば一エーカーに付三百四十四弗の收穫を得て居る。丁抹はまたアメリカ輸入を防ぐ事疑なき内國産林檎の栽培を發展せしめた。此の林檎はベタセンス・ライネットと稱す



る米國最上の林檎のよい性質を皆包含する如き優良なる品種である。ニールセン氏の農園は科學的に處理せられたが故に眞のマネー・メーカー(金作り)であつた。家の前面には花壇があつて、其の中央には數個の蜂の巢を置き、其の直後には臺所用の野菜園がある。農園には凡て前述の場所にて作られたる肥料が撒布され、其の上フロリダの岩燐の少量が附け加へられた。半エーカーは林檎並に小果實の爲め、一エーカー半はマンゴルド・ルータバカス砂糖蕪、其の他はクロバー場、牧場、燕麥、大麥、莢豆等の耕作に使用して居る。作物循環法は次の如く排列されて居る。

- 1、大麥
- 2、マンゴルドと砂糖蕪
- 3、糧秣用の莢豆
- 4、大麥
- 5、ルータバカス
- 6、燕麥
- 7、クロバー

家に入り奥さんの出してくれた最上の珈琲を飲み乍らニールセン氏生立ちの傳記を聞いた。氏は貧乏なる兩親の下に生れ(兩親は一大領主の日雇労働者であつた)幼時は頗る貧困の中に育ち、成長するに及んで父の經路に従つて農業的労働者となつて多

少づつの貯蓄をなし、且つ良き農村學校の教育を受けた。而して一千八百九十九年に第一回の丁抹小作人法案が施行された時に、氏は始めて土地所有者の列に加はる事が出来たのである。

當時氏は政府から五千クローナーの金を借りて現在所有して居る七エーカーの土地を買収した。地價は一エーカーに付四百十二クローナーにて、建物には三千クローナーを費やし、全費用七千五百八十四クローナー即ち二千〇四十九弗七十仙を要した。(日本の約四千五百圓)。氏の收支決算書に依ると氏は毎年二千〇六十六クローナー半即ち五百五十八弗五十一仙の収入を得てゐる。是れ實に二千〇四十九弗七十仙の資本より得る収入としては割のよい利益といはねばならぬ。然も氏の實際の收支決算は以上の平均よりも遙かに好成績を示して居るとの事であつた。



## 第四章 丁抹農村に於ける社會的生活

### || 第一節 經濟的繁榮と満足なる社會生活 ||

農村に多くの人々を止めようとするには、少くとも二つの必要條件を具現せねばならぬ。

第一、投資したる金銭、又は勞働を償ひて餘りある收穫がなければならぬ。

第二、農園に於ける日常生活は社會的に興味あり、且つ、健全なるものでなければならぬ。

此等の二要件なくしては、何人と雖も實際に農村生活を營まうといふ考を起さぬであらう。此れは洋の東西を問はず一般的の事實である。アメリカに於ては多くの農夫は富者となり、一般の都市住民よりも遙かに裕福である。其れにも拘はらず、若し地價の

騰貴といふ事を除いて、單に投資したる資本の利益のみを観る時は、決して彼等は當然受くべき丈の利益を收得して居らないのである。之が農民をして一所より他所へ移動常ならざらしめ、田園を捨て都會に走る者を増し、遂に農村荒廢の原因をなして居る。

農村が單に現在よりも利益あるものになつたとしても、農村地方に人々を吸引する十分の理由とはならない。農村に於る社會生活が一般人間の要求する凡ての要素を具ふるに非ずんば其目的を果す事は出来ない。若しも社會生活が餘りに單純にして彼等の欲望を充すに足りない時には、其要求を満足し得る他の場所に赴かんとするは人情の常である。恐くは此事が最も今日の合衆國の或地方に於る農村荒廢の重大なる理由の一つであらう。丁抹は此點に關して數世紀の長き經驗を有し、アメリカの農夫と雖も十分満足すべきほどに日常社會生活問題の多くを解決したのである。アメリカ人は比較的新しく發展したので、歐洲の文明を彼等と共に將來したに過ぎないかの如くである。歐羅巴の各國は森林の野獸に苦しめられ、戦争によりて敵國に蹂躪され、黒死



病等によつて惱まされ、其の發展たるや、遅緩、且つ悲惨なる進路を經過したのであつた。然るにアメリカ人は斯る外界の敵に苦しめらるゝ事少なく、高原、平野、山麓、曠地等に植民したが。日尙ほ淺く、従つて家と家との距離等も遠く、孤獨的にして社會的事業は其の發達遅く且つ困難であるのは止むを得ない。

(譯者註)

我が國に於る根本問題は、投下せる丈の資本及び勞力を償ひて餘りある收穫物を得しむる事が何より大切である。肥料や必需品を製造者より直接購入する組合の發達、收穫物の共同販賣、穀倉制度、科學的耕作、能率増進、道路側面の利用、住宅地の利用、河川沼湖堤防の利用、山林周圍の利用、海岸川岸の善用、未開墾地の開拓事業の選擇等、增收手段は逐次調査すれば少くない。何れも根本には共同精神が土臺とならねばならぬ。是等が完成の曉は、適當なる指導者さへあれば社交、經濟等の改善は米國より遙かに好都合の事情にある事を忘れてはならぬと思ふ。

## || 第二節 社會生活と自然的環境 ||

丁抹の農村生活の研究に於て最も強く人を感動せしむるものは、其の生活が彼等の環境とよく調和して居るといふ事である。エル・エチ・ベレー氏はアメリカの農村生活改革の爲に努力した人であるが、氏は其著「國家と農民」中に於て「農民は力と幸福の唯一の資源として、自己の郷里の環境に靈的の興味を持つやうにせねばならぬ。」と云つて居る。丁抹に於ては事實上是等の意義を具現しつゝあるのである。彼等の最も愛するものは土壤である。「土壤は神聖なり」といふ句の意味を、彼等はよく理解して居る。米國に於ては農村指導者の無思慮の爲か、將た太平洋方面に漸次移動するといふ傾向の爲か、何れにせよ農民の都會集中を避けんが爲め、都會設備の形式を田園地方に移さんとする熱心が缺けて居る。勿論、一部農村改革者の爲さんと欲するが如く、田園生活に直ちに都會の浮華輕佻なる風潮を齎さんとするが如きは大きいなる危険であるが、



農村娛樂を増加する爲めには一層の努力が必要であると思ふ。

自然に對する丁抹人の愛は花卉、又は灌木を愛するといふ形式にて發表されて居る。彼等は砂利を敷いた道の傍に小さな花壇を設け、或は蔦を以て蔽はれたあづまや(亭)等を作つて楽しんで居る。丁抹人日常の生活は、アメリカ人の如くに奮闘的生活ではない。(勿論之には善惡兩方面はあるが)然し兎も角、丁抹人は單に櫛風沐雨、唯徒らに富を聚集するに汲々たる以上に、綽々として餘裕ある生活をして居る。換言すれば丁抹人は單に金を作らんが爲にのみ専心勞働し、飲食し、貯蓄して時には農園の便宜、家庭の都合などいふ事をも顧みずに萬事の不便を忍びて物憂げなる生活をなすといふ事以外に、妻と共に實に意義ある時を過しつゝ、あるのである。斯く言ふは世界の農民中アメリカ農民ほど富裕な生活をして居る者はないから、アメリカの農民に對して反省を求める爲めに述べるのではない。唯結局働き日の奮闘の間に自然の花を樂しみ、又はあづまやの中央に腰掛けて野菜や豚に心配する事なく悠々自適するは實に羨むべき事

たるを指摘したに過ぎない。是れ實に丁抹農村に於る一般主婦の實狀なのである。

(譯者註)

世界の農村婦人中日本婦人程犠牲的にして勤勉、從順にして堅忍、而も優雅の心に充てる女性は少いであらう。予の知れる一婦人は、夫と共に春の野に出て働きつゝ、「霞みけり見えけり里のはねつるべ」と口吟んだ人ある事を記憶する。然し何れにせよ、彼等婦人に適當なる娛樂を考慮してやる事は、農村振興上重大な意義を有する事と思ふ。

### || 第三節 祝祭日と饗宴 ||

田園の家庭は其の所有者の力の許す限り、住み心地よきものとなされてある。多くの農民が彼等の收入を惜しげもなく、身分不相應に費やす所のは饗宴である。クリスマスとか基督復活祭等の際は、大なる饗宴を催して祝ふのである。此等の饗宴に招待せ



らるゝ事の樂しきは決して忘るゝ事が出来ない程歡を盡さしめるのである。種蒔又は收穫時に際しても亦、全農民を擧げて興じ騒ぐのである。爐邊は今尙ほ農村家庭に於ける團樂の中心である。夕景には昔の如く歌や俗曲の聲が聞える。家庭副業の多くは米國では久しき以前にやめてしまつたが、丁抹では之によつて一層一家團樂の精神を増し、且つ知情の訓練や手技の修練を同時に與へて居る。此等のものは再び手工或は家庭經濟といふ輓近の學科を通じて學校作業にも導入せられつゝあるのである。

#### || 第四節 農村社會生活と技術者 ||

上述の如く丁抹の農村は二重の社會生活を持つて居る。第一は土壤専門の農民で、第二は鍛冶、車輪、靴修繕者、機業者、短期労働者等田園職業の爲めに學校にて訓練されたる田舎の工藝家の生活であつて、之が農民に二重の生活を與へて居る。國民高等學校及び地方農業學校は將來大工として、又は小規模製造業者として、村落又は田

園に活動せんとする青年の爲めに、頗る適切なる課程を授けて居る。されど此の種の労働者に對して更に望ましき課程を教授しつゝあるは、小作人の特殊學校である。政府、或は信用組合の補助により漸く數エーカーを所有し居る小作人の或者は、此の小農と或る工藝とを同時に行ひ、之により其の収入の増加を計り居る者もある。此の工藝的勢力は確かに農村社會生活の單調を防ぐ様になつて居る。アメリカの農村社會に於ても穀倉建設會、縫物會、ハスキングビー(唐もろこしの皮をむく會)音樂研究會、初步舞踏練習會等の盛なりし初代の生活の方が現在よりは遙かに社會的であつた事は何人も信ずる處である。而も遂に此等の頗る社交的なりし會合も其の影を潜むるやうになつた。されば現代式の學校は之に代る適當なものを供給すべき筈であるが、未だ其域に達しないのは甚だ遺憾である。

#### || 第五節 教會と學校 ||



丁抹農村人民日常生活の凡ては、社會中心又は其の周圍に生活して居る。即ち彼等の活動、彼等の思想、彼等將來の計畫等は、何れも二個の大なる農村機關の作業に集中せられて居る。二大機關とは何ぞ、曰く學校と教會之である。集中と云ふ語が使用せられてあるが、此の語は教會や學校の直接作業ばかりでなく、生活改善の凡ての影響は間接に此等學校と教會より出發する事を意味して居るのである。舊式の古き村の十字街、或は村の一端に教師の住宅が建設されて居る。此處は一種の逍遙地で内外とも清潔に整理され、花壇を設け、道には砂利を敷き、前庭にはベンチなど澤山置いてある。後庭は野菜園或は農事試験園である。此處にて教師及び生徒は毎日作業を續けつゝあるが、此等の實驗を施されて居る土地は、耳より聽く説明以上に種々の教訓を與へて居る。換言すれば暗々裡に大自然に接近して生活する事の妙味を感得せしめて居る。斯くて教室は宏大なる面積を以て他方に建てられ、此處も亦自然に對する愛を向上する施設に充ちて居る。或は播種、移植、耕耘法に關する暗示を與へ、或は生物と肥料との關





農 村 教 師 的 住 宅



代 表 的 教 員 的 住 宅



係を一目瞭然たらしめて居る。教師は年中此等の人々と起臥を共にして、人々の個性を熟知し、社會事象を理解し、實際農村生活上に最も適切なる助言を與ふる有用人物となり、年一年其の信用は向上せられ、斯くて學校は農村社會に必要缺くべからざる機關となりつゝあるのである。

校庭の彼方には美はしき館と一世紀以前の石造教會とが建つて居た。是れ亦丁抹農村社會に必要缺くべからざる機關の一である。即ち學校長が人々の間に生活し、尊敬せられ、心服せられて居ると同様に、牧師も亦人々の間に住み、説教し、洗禮し、結婚せしめ、最後には此教會を離れた墓地に彼等を葬つて居る。斯る牧師の活動し居る社會には教會衰微の如き問題は起らない。牧師は教育ある人で、人々の必要なる方面を十分に研究して居る。今や彼は精神的の指導者並に助言者の地位を得、學校長と共に産業中心地に於て爲す進歩に遅れしめないやうに、高き理想主義を高潮して居る。世人は丁抹農民に關して次の如き形容詞を用ゐて居る、『丁抹の農民は彼等が農園を



耕作する間一方の肩には學校を支へ、他の肩にて教會を支へて居る。」と。併乍ら彼等農民は禁慾主義の清教徒ではない。彼等は日曜の朝教會に熱心に出席はするが、大陸的歐羅巴の風習に従ひ、午後は娛樂又は園藝等に時を費し、又多くの場合に單純なる隣人訪問に時を過して居る。若し形容していふならば、多くの農民は田圃や森林に行き、片手にはバスケットを持ち、他手には家族を運んで居るともいふべきであらう。勿論中には町の片隅にて痛飲しつゝある者を見る事もあるが往時の如く繁くはない。

## 第六節 健全なる農村娛樂

丁抹の農民が如何なる娛樂を爲しつゝあるかに就いて、今一應茲に詳述する必要があらう。彼等の娛樂とするもの、第一は音樂である。丁抹農民は謠ふ事を喜ぶ、彼等の音樂は必ずしも上品なる唱歌には限らない、然し乍ら所謂主情主義を活躍せしめ、律動的運動の高低抑揚緩急ありて元氣に充ちたる歌である。此の點は粘性性なるスカ

ンチナビヤ農民の禪味を帯びたる態度とは大いに異なるものがある。俗謠又は愛國的國歌は到る處に唱へられ、而も皆暗記して居る位である。長く遅く調子よき讚美歌すら各種の會合に於て謠はれ、以て會衆の宗教的情調を濃厚ならしめて居る。

彼等の娛樂中に運動競技は音樂に次いで喜ばれて居る。既に述べたるが如く、諸學校は體操並に遊戲の形式にて體育を施して居る。之は小學の一年級より教育の全課程を通じて實行されて居る。上級の農村學校を卒業したる青年男女は、公衆運動場にて彼等の生涯を通じ是れ等の體育的活動を續行するを常とする。當國を視察せる者にして農村地方に到り白髮の老人が活氣旺盛なる青年と共に金棒の宙返り又は肱立等を演じ居る光景を見ては驚かない者はないであらう。假令年齢は老いたるにせよ、其行動にして若く潑瀾たる以上、此人も亦若き人なりといふに何の妨げがあらうか。此等の農民は數世紀以前の北海に活躍したる海賊的祖先の特徴であつた個人的勇敢を有して居るやうに思はれる。馬上の仕合は彼等の最も好める競技で、特に復活祭等に於いて行は



れるものである。一年中を通じて各季節に應じたる遊戯、又は競技が實行されるけれど、中に就き *Host side* 收穫祭の時ほど面白い遊びはない。即ち收穫の最後の束を結び終つた時、農民は男女打連れて其の地方の一番大きい穀倉へ凱歌を奏しつゝ進行を續ける。此の場所は種々の花輪や花を飾りたて、大祝宴を擧げる場所とせられて居る。會場に到着すると喜びに充ちたる主婦達は卓上に大御馳走の膳立てをするに忙はしい。暫時の後、一同起立して國歌を合唱する。斯くて一同は芝生の上で一同揃つて或は數群に分れて好める舞踏を試み、或は各種の遊戯を試みる。時としては酩酊の餘り歡極まつて小軋轆を生ずる事もあるが、そは年一年と少くなつた。月毎の市日には農民が共同的娛樂生活を爲す上に種々の便宜が與へられて居る。米國に於ては數州にて年一回の大享樂日を採用して非常に成功して居るが、丁抹では之が年に十二回行はれて居るのである。其の組織の都合よく出來て居る事は、此市場は一種の手形交換所であつて、農民は此市を通じて各人の農園に於て飼育したる餘分の家畜を互に必要なもの

と交換し得る制度である。馬や乳牛、羊等の長い群が村の彼方此方に散見する。其の附近には批評し合ふ買人が頻りに調査を試みて居る。一方眞面目なる賣買が行はれると同時に他方に於ては各種の競技、遊戯、宴會、舞踏、舊友の邂逅、又往々にしてはビール飲み過ぎもある。適當に打解けて快談する事により農民をして協同親睦をはかり、都市の魔力又は眩光に比較して何等劣らざる享樂氣分の欲求を満足せしむるに貢獻する處頗る大である。上述の事以外に農村學校教師又は牧師は、此間に立ちて團體娛樂を試み、以て土壤にのみ醒醒して其の日を暮す事を全然忘れしめるのである。即座講習、特別講演、青年の會合、老人の集會等は其の場所に設備されて居て、集會場に於て北歐神話やお伽噺の物語と共に種々有益なことが催されるのである。

## 第七節 我が國に於ける農村娛樂の缺乏

原書には米國農民娛樂の缺乏を述べて居るが何も國情を異にする米國の事を譯述す



る必要がない。依つて此處には唯我が國にも共通なる點、及び譯者の之に對する感想を附記して讀者の參考に供する事とする。

人間は單に馬車馬の如く働く丈に生れて居るものではない。苟も勞働能率の増進を計る者は之と同時に勞働者の娛樂を考慮せねばならぬ。略言すれば系統的勞働は常に組織的 樂に反應せねばならぬ。即ち一定時間だけ自己抑制の下に拘束されると其身心は遊戯とか、又は或る興味の形式にて其の疲勞を緩和せんと欲するは自然の要求である。若し此の勞働と娛樂とが適當に調和されるならば萬事は順調に進展する。之に反して此の割合が調和せず全く娛樂方面を閑却せんか、此の鬱屈せる欲望は何等かの形式にて其出口を見出さんと努むるものである。學校の作業等に於ても單に詰め込み主義に盲動する時は何か發噴の出口を見出さんと、遂に聞くも厭はしきストライキ等が勃發するは世人の屢々見聞する所である。這邊の消息を感得したる諸會社、工場、又は軍隊に於てすらベースボール、テニス、談話會、鬪藝等を取り入れるやうにな

つたのは一段の進歩と見るべきであらう。

然るに一方農村は如何にといふに思想は遅れ勝ちであり、社會的設備の見るべきものが無い。一年中の書入れ月として居る盆踊の如きも、風俗壞亂の名の下に禁止せられても、之を改善して高尚なものとせられた事を聞かぬ。踊りは教育的見地よりしても決して悪いものでない。ジョン・ロック氏の如きは却つて之を奨勵し、特に女子に行はしむる事は姿勢の上に、座作進退の上に、良影響を與へると大に踊りを奨めて居る。新農村舞踏を案出するも有意義の事と思ふ。然し地方によりては女工奨勵の結果、盆踊を仕様としても年頃の女子が居ない。如何に改良舞踏を案出した所で、男子のみの踊では更に興が無い。歌留多遊びにせよ、女子が交入せずしては興味が無い。然るに一方人格才能ある青年を農村に留めて事業をなさしめんと欲して居る、即ち現今の農村振興策には往々かゝる矛盾が行はれて居る。現在の如き状態を以てしては、青年が功名は都會に於てすべきもの、如く考ふるも無理はなす。



由來娛樂なるものは之を求むる人の趣味、修養により大いに高下の差を生ずるものである。思想修養が丁抹農民の如く高くなれば、或は自然を娛み、或は讀書の趣味を解し、又は音樂を樂み、或は藝術其の物を好む様になり、自己を娛ましむると共に家族を、隣人を、又は一地方をも感化し、活氣を與へ、元氣を添ふるものである。然るに過渡期にある現今の我が農村では上下擧つて娛樂に饑えて居り、何物も選ぶ餘裕が無い有様である。而も昨今大に宣傳せられる消費節約の美名の下に、年一度の白米飯の年取りすら遠慮せねばならず、收支の不足より役人の獎勵等に動かされて年若き少女達は皆都市の工場に走る。斯くて果して氣概ある青年を農村に留めて地方の改善を希望する事が出来ようか。最近朝日新聞の鐵箒欄に記載せられたる一農村青年の感想は、確かに一農村地方の眞想を有の儘に叙述したるものではあるまいか。曰く

『嫁が欲しい』

越後の農村や漁村に一度來て見るがよい。一人だつて若い娘は居ないのだ。居る

のは梅干婆さん許りだ。

若い女は續々と他國に出稼に行く。大部分は「會社者」即ち女工さんになつて信州、群馬、さては名古屋に迄出かけてゆく。さなくば有名な「色を賣る白粉女」となつて出かけるので、村には若い女は地主様の御娘さん位より見る事は出來ない。俺達見たいな若い男の寂しさつたらない。夏が來ても盆踊も男ばかりでは面白くない。それは我慢をするとしても一體俺達の嫁は何處から貰へばいゝのだ。俺は嫁が欲しうてたまらない。けれど水呑み百姓には來て呉れる女がない。さうだから、村にさへ若い女が居ないんだからな。

出稼して居る女達がたまに村に歸つても、もうすつかりハイカラになつて七三髪を結ふと安香水の匂ひをブン／＼させて俺達にはも色眼もつかつて呉れない。尤も「枯れすゝき」や「安來ぶし」なんどといふ唄は教へて呉れたがな。そして都へ都へと歸つていつて、村など振かへつても見ない。



村の男の寂しさつたらない。俺は嫁が欲しい。どうすればいいのだ。俺の村で女工になつた娘と夫婦になれずに死んだ男がある。隣の村では放火もした。隣村では人殺しもあつた——さなくばみんな若い女の居る都會に出て行く。此の分では今に村に若い男も居なくなるであらう。

女工は尊い仕事だと縣の役人が奨励遊ばす。農村の青年は品性を向上せよ、と仰しやる。だが事實はどうだ、農村の疲弊も、農村の衰亡も百の議論よりこの一つの事實が一番適切に語つて居る。

あゝ俺は嫁が欲しいが来る女も居ない、俺も村を出よう、若い女の居る都に出よう。縣の御役人達よ、本當に農村を見て呉れ、そして、どうかして呉れ、俺は寂しい、村の若者は寂しい。

斯くの如き状態を以てして、如何に理想を説き、發展を高調しても其效果の擧らざるは識者を待つて始めて識る事實ではあるまい。農村振興の第一義は先づ農民に健全な

る娛樂を與へよであると思ふ。

然らば其の方案は如何にといふに、予は地方に農村娛樂休養に關する委員制度を制定する必要があると思ふ。而して其の委員等をして左の仕事に當らしむる。

一、地方の歴史と境遇とに應じ最も適切なる娛樂競技等の奨励をなす事、例へば相馬地方に於ける野馬追の如き必ずしも甲冑を擔ぎ出さずとも乗馬競技、遠乗會等種々改善の出来るものは改善し、費用を多く要せざるものと變へるもよいであらう。

二、地方農民の仕事の間を利用して社交的娛樂を加味したる地方祭典の奨励、例へば嚴島の延年祭の如き、鹽釜神社の祭典の如き、其の歴史と根本精神を失はざるやう斯かる機會に地方農民の健全なる娛樂を發達せしむるも妙案である。

三、楽しい事も小人數としては興味なきも、多人數集まる時は頗る興味あるものとなる故、時には附近の數村又は隣村の老若男女相會して團體遊戯、舞謠、音樂會、芝居、擊劍、其他の競技類を奨励すること。



- 四、共同地を利用して運動場、公園等の振興。
- 五、道路や休養地に花壇、果樹栽培等の事業を起すも利益と娯樂を増さしむるものである。

之と關聯して農村裝飾委員を選定し次の如き諸點を實現する事も必要と思ふ。

- 一、芝生、花園、樹木の改良法研究
- 二、家の周圍に移植すべき果樹の研究
- 三、農家外觀の裝飾法
- 四、架橋の美術的構造
- 五、路傍柵の作り方
- 六、學校寺院墓地の裝飾
- 七、地方人の審美的情操涵養の爲め地方三、八、十二景等を選択し、地方の誇を増加すること。

八、遊園地としての地方の特色を發揮せしむべき事  
等舉げ來れば地方々に應じて數限りないであらう。



## 第二編 農村學校作業の改革

### 第一章 教育制度の概論

#### || 第一節 農業の發展を可能ならしめし諸學校 ||

前編記述した様な丁抹田園の開発は主として農村に於ける學校教育の賜である。此等の學校は大體農村小學校、國民高等學校（フォーク・ハイスクール）地方の農學校、家庭經濟の農村學校並に小地主の特別學校等に分類する事が出来る。丁抹の農村小學校は學校の基本的學科に著しく力を入れ、總て徹底的に教授し、同時に生涯を通じて農業を以て立たんとする様に根本より築き上げんことを試みて居る。フォーク・ハイスクールは丁抹に特別なる貢獻をなした學校であるが、農村生活改良上偉大なる方法を



通じ遂に經濟的にも政治的にも一國を支配するに至らしめたのである。有名なる丁抹の農業指導者の證言に依れば「近世に於る農業的勝利は學校の事業によつて得られたもので、彼等教育者の努力した性格の發展といふことは遂に國民發展の基礎となつたのである。斯くて國民間の相互の信頼が養成され、以て全國の總ての事業の協同的運動は成立するに至つた。之なくしては農夫間相互の信用は存在せず、従つてベーコン工場、牛乳事業、購買組合等も完全に其目的を果す事が出来なかつたのである。此の意味に於てフォーク・ハイスクールは國民の高尙なる性格を築上げ、最高の理想に到達せしむる様導いたのである。其の他農村學校、家事經濟の農村學校等も科學的農業、及び家庭經營の原理を教ふると同時に、生徒各個の性格完成に努力した。此等の學校は何れもフォーク・ハイスクールの補習學校の性質を持つて居る。斯くの如く組織されたる教練がなかつたならば、丁抹の今日の農業の發展は望み得なかつたであらう」と。

## || 第二節 授業料なしの小學校 ||

農民生活の教育的計畫は先づ授業料無しの小學教育に始まる。授業時間の一部分は教室に於いて、一部分は學校以外に於いて農業の成功に必要な經驗と知識とを了得するのである。七歳より十四歳までを義務教育期間とするが、實際に於いては滿六歳にて入學する。教育制度は學齡兒童を一人も残らず出席せしむる様にと嚴重に施行されて居る。學校教員は國家の爲に全生涯をささげる職業的教育者なので、一様に徹底した準備教育を受けた人々である。此等の教師は他の階級以上に俸給を與へられ、多くの場合に於いて社會的の上地位を占め、社會の指導又は組織者を以て任じて居る。何れも斯かる教師は皆男子であつて、國語、算術、其の他の主要なる學科と宗教教授、自然教授、音樂及び體操等の學科を教へる。十四五歳になると總ての丁抹の子供は皆國立教會に屬せしめられるのである。



### || 第三節 身體發達の時期 ||

義務教育を卒へた生徒の或者は國民高等學校に入り、漸次進んで國立大學の教育を受ける。此等の者は農村に止る子供に比較すれば其の數極めて少數であるが、其他の者も勉學の機會を與へられないわけではない。即ち小學校卒業後、比較的大多數の者は夜學に於いて補習教育を受け、更にフォーク・ハイスクール其他の學校に入學する。

一九〇六年に於ては三十三パーセントの青年及び三十二パーセントの女子がフォーク・ハイスクールの生徒となり、十四パーセントの青年はフォーク・ハイスクールの農業科の課程を踐み、大多數の女子は家政學の特別學校に出席して居る。此等の學校は何れも開濶なる田園に設立され、十八歳になる迄は入學が出来ない。故に小學校卒業後四年間徒らに過すのは一寸不經濟の様に思はるゝが、丁抹の識者は此れを以て却つて宜しきを得たものと満足して居る。何となれば此時代は春期發動期に屬するを以て、

特別に教室で重荷を負はしむるよりは、寧ろ身體發育の爲に費すべきものと考へるからである。即ち此の時期は身體上特別の發育の時期、即ち青年より成人に達する過渡期であつて、身體の發育が著しく、智的發育は往々にして健康を犠牲にすることがある。であるから彼等識者は此の時期は主として野外に働き、又は遊戯をなすべき時期として居る。男子は此の時期に於いて實際的農業を習得し、又た女子は家庭にありて家事を練習する。或は更に國立の模範農場に働き、此處にて實際的の運用法を學び、又専門家よりして種々科學的事實を修得する。事實上此等の模範農場に働く特權を得んが爲めには、或る一定の金額を納入する者すら多々ある。又遊戯並に體操等の體育的方面にも多大の時間が與へられて居る。先づ小學校に於いて體操は必修科である。而して之は國民高等學校及び農學校を通じて必修科として居る。加ふるに、殆んど總ての田園社會は各地方に體育會を組織し、集會所、及び體操練習所を持つて居る。此處にて青年は學校時間以外彼等の親友等と共に適當なる指導の下に體操的教練を試みる。斯



くて二三年は立ちどころに經て、やがて國民高等學校に入學するのである。

#### || 第四節 國民高等學校と其の修養期 ||

國民高等學校は主として大人及び青年の學校である。丁抹人は此の學校を一名大人學校と呼んで居る。これには理由がある、即ち此の學校はアメリカのハイ・スクールや日本の中學校とは全然意味を異にし、生徒の年齢は十八歳より二十五歳、時にはそれ以上の者も少くないからである。生徒は總て農村社會より來り、各種の職業の人々より成立し、富める者、貧しき者、あらゆる家庭より集る。其の目的とする所は特別の職業的教授を與ふるよりは個人の品性を發展せしむるにある。生徒は何れも前述の如く或一定期間智的勞働より休息し、強健なる身體と洋々たる希望とに滿ち、質實勤勉潑刺有爲の青年ばかりである。今其の目的とする所を列舉せば左の如くである。

一、寛大なる精神、道德的平民を養成すること。

二、土壤及び自然的農園に對する根柢よりの愛好心を涵養すること。

三、農業生活に對する正しき見解を與ふること。

四、階級的偏見を打破し、且つ如何にして彼等の發達せる政治的權力を利用すべきかを示すこと。

五、地方農學校にて考究すべき専門的學科の基礎的修養を與ふること。

六、古き歐洲各國に普遍的に迫り來れる生存上の壓迫に對し、智的に準備する様青年を指導すること。

國民高等學校にて男女共學の制を採つて居るものは極めて少い。男子の學校は十一月に始り、五ヶ月或は六ヶ月を期間とし、女子は同一の學校にて夏季三ヶ月、或は五ヶ月間出席する。教授は科教書よりは寧ろ講義に依る。斯種學校の成績如何は全く教師の質如何によるものである。故に充分に訓練された教師が要求されるのである。



第五節 地方農學校並に家庭經濟學校と科學的教練

男子は地方の農學校に一學期、二學期或はそれ以上出席する。女子は家庭經濟の農村學校に出席する。即ち青年は農園職業の實際經驗を得た後國民高等學校に入學し、卒業後直ちに地方の農學校に入學するを常とする。斯る場合には農業實習は省かれる(次章参照)。此證明は農學校へ入學前、政府認定の模範農園にて受けねばならぬ。農學校にては農業の原理、土地測量、農藝化學並に農業の實務的基調となる各種の科學を教へる。而して生徒が既に實際上の農夫であるから、學校の目的は自ら實際の事實と農業科學とを結び付け、以て日々の仕事を如何にすべきかを知ることより、更に進んで何故かくするかを理解せしめ、農業其のものに一層の興味を有せしむる様にするにあるのである。

家事經濟學校は専ら女子に對するもので、男子に於ける農學校に似て居る。女子が

農家の主婦としての内助の効を完うするには確たる自信の下に科學的に家事經濟を處理するの道を理解させねばならぬから、學校は此の要求を充す爲に努力して居る。尤も國民高等學校も長い間此等の科目を偶發的に教へ、就中裁縫又は刺繡を獎勵して居た。然し家事經濟の此新しき學校に於ては全然主婦としての學科のみを教へて居る。

第六節 小地主の特別學校

小地主の爲に組織された學校をハスマンド・スコラといふが、これは國民高等學校と農學校との長所を採つた、云はゞ、農夫の爲の短期講習所の様なものである。生徒は如何に年をとつてゐても、如何に教育がなくても入學が出来る。農家の副業としては養鶏、養蜂、養兔等の事が特に注意されて居る。されば如何なる農夫も何等かの問題を捉へて入學し、望む所の指導と補助とを受ける事が出来る。又若き人々にして政府の牛乳業、養豚並に斯る職業の専門家とならんとする者は、コーペン・ハーゲンにある



王室家畜藝學校に於て一年以上の勉學及び實驗をなすことが出来る。之を要するに丁抹教育局の尤も偉大なる事業は手足を以てなす仕事を輕蔑することなく、而も之に對する確固不拔の信念と多大の修養とを成さしめたといふことである。

## 第二章 農村小學校

### || 第一節 義務教育 ||

兒童の七歳より十四歳迄は義務教育の時期である。されど異常兒童、又は其他の傳染的疾物を有するものは特定の學校で教育を受ける。全人口を通じて考ふれば、近來農村の學齡兒童の數は甚しく増加した。即ち一九〇九年(明治四十二年)の二十五萬五千六百八十一人は翌一九一〇年には二十五萬八千八百八十八人、となり更に一九一一年(明治四十四年)には二十六萬一千五百十八人に増加して居る。今一九一〇年一月一日に於る全兒童數を表示せば次頁の如くである。之によれば學齡兒童の大部分は學校に入學し、不就學兒童は僅に六百四十三人に過ぎず、一九一一年には更に三百七十人に減じて居る。兒童の大部分は公立小學校に入學して居る。子供を私立の小學校に入れる



性	農村兒童ノ教養所				入ザル 學齡 七學 兒童	異常 病弱 等
	普通公 立學校	他ノ公 立學校	私立學校	家庭(家 庭教師 政府)		
男兒	117,376	3,174	9,908	970	316	225
女兒	113,437	2,638	9,062	1,263	327	192
合計	230,813	5,812	18,970	2,233	643	417

親は無授業料學校に對する偏見を持つ地方の豪農に多い。又數千人の兒童は家庭に於いて教育されて居るが、此等は何れも富豪、又は貴族の子弟であつて、コーペン・ハーゲンにある文科學校に入學する爲に準備しつゝあるものである。されど何れの學校に於いても、又家庭にあるにしても、一種の必修學科目を義務的に修得せしめられる。凡て子供等の入學する際には種痘を済ました證明書を見せねばならぬ。

丁抹人は一般に教育の價値を認めて居る。従つて義務教育に關する法律の違反者は殆んどない。無論法は此の義務を逃れんとする者に對しては嚴重な所罰をする。各農村小學校の校長は其學校區の學齡兒童の完全な戶籍上の諸記録を持つて居る。

父兄が一教區より他に移住せんとする時は一週間以前に其教

區の會議に轉籍の通告をしなければならぬと同時に、移住先の官憲にも同様の通告をせねばならぬ。此れによつて轉籍の記録は適當に保存されて寸時も等閑にされない。子供等の籍は新教區の學校教師より手紙によりて再び入學したる旨の通知を受くる迄は大切に保存される。かく嚴密なる兒童追跡の方法は現に卓越せる成績を擧げて居る。教師は兒童の缺席せる場合は徹底的に之を調査し、法律上の理由なしに休んだか否かを判決しなければ止まないものである。

又毎月一回は兒童の缺席に關し、學務委員會に報告をする、此の學務委員は尙一層精密に調査を試み若し其缺席が兒童の習慣的怠惰のみの結果に非ざる場合は、兩親或は保護者に罰金を課する。此の罰金は差したる金額ではないが一般に重せられて居る。學校問題上の罰であるから、丁抹人には十分な効力がある。即ち入學後第一ヶ月目の一日の缺席に對しては十二オール、二ヶ月目に對しては二十五オール、三ヶ月目に對しては五十オール、四ヶ月目に對しては一クローナーを支拂ふことになつて居る。學務



委員會は必要に應じて此等の科料を集金せんが爲に償還法を適用して居る所もある。又學校は最も大切な仕事の一つとしてこの罰金徴集に従事して居る。

一人

|| 第二節 授業日時數 ||

一九〇四年の學制に依れば、教授日數は少くも一ケ年四十一週即ち二百四十六日以上たるべく規定されてゐる。然し此法律は總ての兒童は必ず二百四十六日間出席すべしといふ意味ではなく、實際の出席は學校の週々に費した六十分一時間の數をもつて計算する様になつて居る。此の點に關して一週間に大都會に於いては最少限二十一時間、農村地方にては十八時間と規定されてゐる。されど此の時間數の中には體操、手工、圖書、家事、經濟等は含まれてないから實際に於いては尙時間數を増すであらう。如何に毎日の時間を案排して如何に之を各學科に配當すべきかは、教師及び學務委員に任し、土地の情況により決定の自由が與へられてゐる。

一般に年長兒童は年少兒童よりも冬の期間に多くの時間を費し、夏は其の反對である。學校によつては半日制度を採り、又は或日數だけを半日制度とし、或は又學年の異なるに應じて半日制度と全日制度とを混用してゐる。ホオルフォイ・ランドソーゲン・スコラでは八學年制度であつて六組に分けてある。一、二、三、四學年は各別々の組であつて、五年と六年とは第五組、七年と八年とは第六組となつて居る。一學年を二百七十六日とし、冬は午前八時半、夏は午前八時に始業し、午後三時を放課時刻としてある。然し實際は半日制度を採り、第二、第五、第六は只午前のみ出席し、第一と第三と第四とは午後のみ出席する。各學年四時間づつ六日間の授業をなし、一年間に於いては九百五十四時間出席する譯になる。教師は三人で、二人の教師は二つの組を他の一人は只一組だけを教える。教師が變ると教室も變り、生徒に毎日多くの宿題を課し、又次の日の日課を指定し、四時間の授業を十分に利用させるやうにしてある。今半日制度の學校の長所を挙げれば、



第一、教師は半日中に二つ以上の組に注意を拂ふ必要のないこと。  
 第二、生徒は始終日々の課業に忙しく常に緊張して居り、教師は常に比較的少數の生徒を管理することとなるから教授も訓練も徹底させる事が出来ること。  
 第三、年長生徒は午後的一部分を農園にて働く事が出来ること。  
 等である。就中、最後の點は丁抹の農業經濟上看過すべからざることである。又ジールランドのロスキル附近にあるヒメルプ農林小學校は、半日制度と全日制度との兩制度を混じたる模範的學校であるが、教師は三人で一年に四十三週間の授業をして居る。休業はクリスマス・エースターと八月中の短期休暇があるばかりである。丁抹に於いて児童に出席を奨励することは、我國と變りはないが只児童をして長い時間を學校に置かんとよりは、短時間の教授の方が遙かに有効であると信じて居ることが其の特色である。ヒメルプに於いては年長生徒は全日が三日間と、半日の日が三日間とである。これに依れば都合生徒は一週間平均四日半出席することになる。即ち一年間の授業日數百九

學年別	毎週時間		毎週日數		授業月數 (一ヶ月廿 日ツツ)	一年平均 月數
	正課	體操等	半日	全日		
1A.....	18	—	6	—	6.25	—
1B.....	18	—	6	—	6.25	—
2.....	18	—	6	—	6.25	—
3.....	21	4	5	1	8.66	—
4.....	24	2	4	2	9.00	—
5.....	24	2	4	2	9.00	—
6.....	27	2	3	3	10.00	—
7.....	30	2	4	4	11.00	8.33 +

十三日半となる。最後にヒューン州のイチビー農村小學校を観るに、此處も全日制と半日制の混合である。かくて上表の如く一年間には二百五十日の授業日數となる。但し此の表は冬半年間のものである事を忘れてはならぬ。要するに各學年を通じて児童は一年間の平均一週間に三日四分ノ三出席する割合になる。依つて今一箇月二十日の學校出席日數の割合として計算すればイチビー學校に於いては八箇月半の授業をする事となるのである。

|| 第三節 學科課程と學科目 ||  
 法律は總ての農村小學校にて基礎的知識を授ける



農 村 學 校	正規以外ノ學科目ヲ教授スル學校數									
	合ム博物科 自然研究會ヲ	獨逸語	英語	佛語	其他ノ國語	算術以上	衛生ト生理	農村簿記	手工	圖書 (特別學級)
上級學年五年ヨリ八年	196	57	61	9	4	25	99	90	11	146
下級學年一年ヨリ四年	7	3	3	—	—	—	103	—	—	6
補習學校・……………	15	14	15	5	2	13	15	—	2	11
合 計……………	218	74	79	14	6	38	217	90	13	163

様に要求して居る。學科課程表には宗教、讀方、書方、算術、地理、唱歌、圖書、體操並に手工等の諸科目を含んでゐる。其の他博物、生理及び衛生、家事經濟、デンマーク以外の國語等は、學務委員及び地方社會の要求に應じて教へる様隨意科目となつて居る。上表は此等附加的科目及び圖書に於ける特別時間をとつて居る學校の數を示したものである。博物科は農業に關聯して益々重きを置かれてゐる。故に此の科目はすべての學校に於いて殆んど規則的に教へられて居る。又獨逸語と英語とは商業工業の關係上大切な學科である。生理衛生は全小學校を通じ、折にふれて教へられて居るが、手工科は多くは置かれて居ない。然し漸次設けらるゝ傾向はある。流石に

大都市の方が此の科に關しては遙かに深く注意してゐる様である。

讀方と綴方とが完全に分れたる學科として取扱はれてゐない事は、注意すべき點である。即ち綴方は讀方の課程の一部として教へられるから、綴方の本は用ひられてゐない。尙此等の科目は寧ろ高等教育を受くる爲の必要な手段と看做されて居る。

熟練した教師の下にて訓練された兒童は、教室にて得たる國語を家庭及び運動場に適用するの能力を備へて居る。丁抹の國語は一般に動作を通じて教へられる。即ち綴方や書方と關聯して訓練され、又た教師は極めて簡單なる讀本又は歴史の本から書取りを課して居る。而して必要に應じては文法上の規則も教へる。教授は一般に歸納的方法を用ひて居る。

宗教的科目即ち聖教史、讚美歌、聖歌問答等はすべての學校を通じて高潮してゐる。其の聖教史は低學年に於いては口授し、高學年に於いては教科書を用ひ、以て一般的歴史の基礎を與へる。聖教問答も教科書によつて教へられる。



歴史及び地理は學科課程中の高地位を占め、事實上總ての學校課業は歴史的背景の上に教へられる。而して歴史は單に丁抹やスカンデナビヤのみに限られず、自國史を中心として東洋及びヨーロッパ諸洲の歴史を巧に案排し、教會史の一部分をも加へて中世紀の歴史教授の補助とし、尙スカンデナビヤの神話は歴史の基礎として特に重要視されて居る。又地理の教授はスカンデナビヤの國々を土臺として之に多くの時間を費すのであるが、歴史地理共に教授法は寧ろ幼稚である。或る學校に於いては往々に舊式の記憶的課程を辿り、又た或教師の如きは歴史を教授する代りに單なる歴史の講演をなしつつ、ある傾きがある。

初年級より大自然に親しむ様に仕向けられてあつて、兒童は物語により地圖や色附け繪畫等の助けにより博物を教へられ、教師と共に郊外に出て、學校附近の自然物を研究することによつて興味の間自ら自然界に關する知識を得る様になつて居る。上級生には博物、生理、動植物及び人體研究並びに衛生學の完全なる課程を修業させ

る、尤も其の分量は學校に依つて異つて居る。

裁縫、編物、刺繡等はすべての農村學校に於いて教授し、其の爲めに特に女教師が雇はれてゐる。或單級學校に於いては男教師の妻が之に當つて居るが、唱歌も大抵の學校では之を課し、教師は自ら歌ひ得ると否とを問はず、何等かの方法により之を教授するのである。

書方教授も同様に、之を課さない學校はないが、兒童は唯だ清潔に書かんが爲めに非常な努力を拂うてゐる。されど之が爲に多くの時間を要する缺點がある様に思はれる。

又暗算教授には大に力を注いでゐる。初年の兒童にても、暗算に依つて比較的六ヶ敷い問題を自由に分解計算する。其の速度及び正確さは實に驚嘆に價するものがある。平面幾何學は測量問題の根柢を與へんが爲め随分高等な程度迄之を教へる。

體操は總ての男子に總ての學校にて強制的に課してゐる。女子は課外科目として特



別に之が練習をする。三年或は四年迄は男女共學で其の後は兩性分離して訓練される。比較的新らしき農村學校には屋内體操場が設けられて居る。室内體操場の無き處には屋外に適當なる地所を選び、砂を敷き必要なる器具が準備されてある。體操教授は丁抹の學校教育上最も卓越したもの、一つである。

#### || 第四節 教授法と學校の實際 ||

丁抹の學校は教師の能力に依頼し、米國の様に教科書に依らない。教師は十分職業的に訓練されて居るから、如何様にも自由に教材を活用する方法を知つて居る。故に教科書は單に學校と家庭との間を繋ぐ糸の如きもので、何も教科書其の物が教育的絶對の價值あるものとしては居ないのである。従つて數學なら其の梗概を、歴史なら單に其の題目のみを示す様な物である。其の他は皆教師が之を補ふ様になつてゐる。是れ則ち一般の教師が教科書の奴隸となる事を防ぎ、其の課業に對しては教師の

自由意志により、教師の個性を十分に發揮せしめん爲である。かくの如く教科書が總てのものを備へて居らざる場合には、却つて教師生徒共に構成的、創意的の能力を活用する事が出来るものである。左に農村小學校に於ける實際教授の一例を示すこととする。

(一) フリスリンゲ農村學校。此の學校は教師ウィンター氏の監督の下にあるもので、氏は實に十三年間之が經營に従事して居る。學校は風光明媚なる南方ヒューネンの山水を一眸の下に收むる小丘の上に建つてあり。周圍花園、散步場並に一面に白砂を敷きつめた運動場があり、其の周りには美しく切り揃へた生垣があり、生垣の外は森林になつて居る。學校のすぐ後には田舎の小やかな教會があり、又た其れに引き續いて花園や菜園を有する教師の家などがある。學校は單級制度で、一哩離れた所に簡易科學校を持つて居る。その構造は近世式建築法に則り、教室の採光、換氣法、暖爐等皆完全に設備されて居る。



其の他教授用の地圖、掛圖、標本等の備品も數多く存してゐる。又自然科学の簡易な實驗をなす爲には物理實驗機械があり、牛乳の検査や土地検査等をなす爲の化學用小棚の上には之等の實驗に要する藥品及び諸道具が置いてある。地理學的、人種學的の比較的完全なる標本類も整然と陳列されてある。尙六百卷餘の書籍を有する巡回圖書館は兒童及び父兄等の使用に供せられ、深い窓框の臺上は自然科学研究の材料及び室内植物の陳列を以つて充されて居る。

フリスリング校にて最も注目すべきは體操科に重きを置く事である。體操は主に室内にて行はれるが、屋内體操場は質素清潔にして堅牢な床を有し、又經濟的な諸機械を備へてゐる。八歳より十一歳迄の男女混合の級は、毎日愉快に面白く此所で練習してゐる。體操始業前には床上を雑巾で拭き、三月頃の風の烈しい時でも大抵窓は開放される。兒童はすべてスリッパを履き、女生徒は日本の木綿布に似た短いスカートをはいてゐる。先づ普通の體操をなし、次に瑞典式の種々な練習をする。男女は性の違ひを全

然忘れて各自の仕事に其の全勢力を注いで居る。

體操の一部分は國民歌を唱ひつゝ、行動する。此の事はかの國民高等學校の運動場にも見受けらる。之は丁抹特有のもので鬚武者が步調を整へて歩き出し、忽にして愛國的の歌を唸り出す光景は到底他國では見られぬ圖である。而して歌はやがて調子を變じて民衆舞踏と變り、又遊戯となる。かくて教師の號令一下多數の生徒は直ちに整列し、敏速に行動し、四十五分の間同様な運動を繰り返して練習するのである。

五年級六年級は音樂に依つて集合せしめられる。ウェンター氏はヴァイオリンにより歌に應じて全級の者を指導する。先づ五分間は馳け足をなし、次に歌ふ、之によりて如何に音樂の樂譜を読み得、又は歌ひ得る能力あるかを試験するのである。

二三の教師は全生徒が歌ひつゝあるか否かを簡單なる方法によつて驗査する。又書き方及び自作綴方を課して其の成績を調査する。書き方は非常に綺麗で念が入つてゐる。綴方は歴史、地理、農業等の諸學科の豊富な知識を有してゐることを明かに示し



て居る。  
 ウエンター氏は地方の社會的事情に精通し、學校をして努めて之に適合せしめんとし、然も此の努力をして効あらしめた教育界の偉人である。氏は實によく學級學科等を組織し、又よく兒童を訓練し、次で其の地方の要求に調和せしめたる有力な良教師である。

(二) フォール・フロイランド・ゾーグンス・スコレ。此學校は種々の點に於いて暗示させられる學校であるから、前者に比し今少しく詳細に論述する價值があると思ふ。さて學校は丁度オーデンスといふ田舎ではかなり大きな町の奥の方にあつて二百十人の生徒を有して居るが、此等の生徒は皆田舎の小さい農家又は職人並に日給勞働者の子弟である。教師は三人で、而も半日制度を適用して居るから、二百人以上の生徒を扱ふは随分困難であるにも拘はらず、何等の混亂をも見ない。又た校舎は新式で部屋も十分に整うてゐる。

時間割

組	時間	月	火	水	木	金	土	
II	8-9	丁抹語	歴史地理	宗教算術	地理博物	歴史算術	宗教書方	
	9-10	算術書方	丁抹語	丁抹語	丁抹語	丁抹語	丁抹語	
	10-11	書唱	算術博物	書方博物	書方博物	宗教歌	博物	
	11-12							
I	12-1	宗教書方	丁抹語	宗教書方	丁抹語	宗教書方	丁抹語	
	1-2	丁抹語	博物歌	丁抹語	算術博物	算術博物	歴史書方	
	2-3	算術	歴史丁抹語	談話	博物歌	丁抹語	書博物	
V	8-9	讀方	宗教	地理	宗教	博物	宗教	
	9-10	算術書取	書方歌	算術書取	書方讀方	算術書取	書取	
	10-11	書取	唱歌	書取	讀方	讀方	歴史	
	11-12	七ヶ月ノ間毎日體操						
III	12-1	算術	書方宗教	書方宗教	算術	算術	歴史	
	1-2	讀方	讀方	讀方	讀方	讀方	書方	
	2-3	作文	作文	唱歌	作文	地理	讀方	
	3-4							
	4-5	毎週四時間ダケ女子ノ爲メ=手藝ヲ課ス						
	5-6							
VI	8-9	宗教	地理	宗教	文學	宗教	博物	
	9-10	書方	算術	丁抹語	算術	文學	算術	
	10-11	丁抹語	丁抹語ノ作文	唱歌	作文	歴史	文學	
	11-12	毎日體操						
IV	12-1	宗教書方	算術	宗教	算術	讀方	算術	
	1-2	讀方	讀方	書取	讀方	書方	讀方	
	2-3	書取	書取	歴史	地理	音樂	書取	
	3-4							
	4-5	一週間四時間女子ノ爲メ=手藝						
	5-6							



三人の教師とは一人は校長ヒルデスニスイルセン氏で他は二人の助手である。右記の表は六組の児童が日々従事する課程表である。已に前述した様に第一組より第四組迄は一年より四年迄、第五組は五年六年、第六組は七年八年である。

今唱歌、算術、博物の三科について観るに、唱歌の授業に於ては児童は樂譜に依つてよく唱ひ、高低強弱等もなか／＼よろしきを得てゐる。讚美歌、愛國的國歌及び民謠等は綺麗に流暢に音樂的に樂譜に従つて唱はれる。

六年級の生徒は暗算が非常に上手である。迅速に正確になか／＼大人も及ばない位である。算術の時間中三十分位は暗算練習に費やすのが常である。暗算が終ると教師が問題を黑板の上に書く、書き終るや否や解答の出來た児童の手は、早くも元氣よく擧げられる。次で嚴密な驗算が各問題に試みられ、かくて授業は些の停滯もなくさび／＼と進行する、而して手を擧げない生徒は殆んどない位である。暗算問題の一二を擧げれば左の様なものである。

(1)	$2\frac{7}{12} + 11\frac{11}{56}$	(2)	$6\frac{2}{3} + 9\frac{9}{64}$
	$9\frac{2}{3} - 7\frac{1}{10}$		$5\frac{2}{3} - 2\frac{11}{16}$
	$3\frac{1}{2} \times 2\frac{1}{2}$		$7\frac{1}{2} \times 1\frac{1}{2}$
	$11 \div 1\frac{1}{2}$		$13 \div 3\frac{1}{4}$
	$1\frac{1}{2} \div 0.33$		$0.48 \times 3\frac{5}{12}$

博物は女教師が教へる、例へばイングリッシュ・スバロー(英吉利の雀)といふ額目であれば、色彩を施した鳥の巢の掛圖や黑板などを使用し、問答法によつて自由に教授して行く。問答法は児童が鳥に對する知識の如何に豊富であるかを示し、教師は更に適當に各児童の言葉に依つて發表せしめる。かくて丁度時間が終る頃には巧に若い女教師は小さな子供のハートに自然に對する愛好心を萌させ、彼等をして將來自然の保護者たらしむるの基礎を築くに成功した事を明かに示すのである。

(三)イチビー農村學校 此學校は一つの組合學校であつてイチビーといふ小さい村



學 科 目	年							
	1A	1B	2	3	4	5	6	7
宗 教	4/2	4/2	3	3	3	3	3	3
デンマーク國語及ビ文學	6	6	7	7	7	7	7	8
書 方	3	3	2	2	2	1	1	1
算術及ビ農業計算	3	3	3	4	4	4	3	2
特殊農園問題	—	—	2/2	1	2	2	2	2
地理	—	—	—	2	2	2	2	2
歴史	—	—	—	2	2	2	2	2
生物學ト農業	—	—	—	1	1	2	3	4
博物及ビ衛生	4/2	4/2	2/2	—	—	—	—	—
博唱及歌	2/2	2/2	2/2	1	1	1	1	1
圖畫	—	—	—	—	—	—	2	2
體操	1	1	1	—	—	1	1	1
體操(男子)	—	—	—	—	1	1	1	1
體操(女子)	—	—	—	—	1	1	1	1
手工(女子)	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	18	18	18	21	24	24	27	30
特別體操(男子)	—	—	—	2	—	—	—	—
特別體操(女子)	—	—	—	2	2	2	2	2
特別手工(女子)	—	—	—	2	—	—	—	—

落と、同じ名前のレストランとの間の平原に建てられた小ざつぱりした煉瓦造りの校舎である。四人の教師の住宅も校舎の中にある。一九一一年以來數年間の大運動の結果設立されたものである。上表は六組の日課々程を示す。

斯くの如く體操と手工とは一部分は學科課程に、一部分は日課以外に課されてある。體操は一學年A組、一學年B組、二學年並に三學年の男女合併で教へられる。今此の學校の博物と高等算

術とを觀るに、元來丁抹の小學校で教へる博物は實際は初歩の生物學で、其中には動物學や植物學の敘述的なもの並に生理學を含むのが常で、イチビーも其の例に漏れないが、例へば普通の哺乳動物といふ題目であれば、特に家庭的哺乳動物に就て述べ、牝牛、羊等については就中詳しくさせる。由來丁抹では自然研究とは自然に對する愛を教へ、而して博物は人生と自然とを親しませるもの、農業は自然の愛と自然の知識との兩方を應用するものであつて、此等の何れも農村學校にて修得し得るものといふ意見が一般に行はれて居る。又實際的農業は小學校卒業後補習學校で勉強すべきものといふ考へである。

高等算術にては、例へば測量學の實際的應用問題を説くならば、多くの平面幾何の定理が測量學の法則を説明するに使はれる。一時間の中三十分ばかりは七角形の面積を見出す爲に費され、教師は自ら實際測量した物に基いて眞の面積を準備して居るといふ風である。總て此等の教授は實際的であつて、彼の教科書のみを頼つてゐる學校











の教室には、各兒童一人につき床面三呎四方の錠前づき柵が設備されてある。出来るならば新校舎には雨天體操場を建設し、其の内部にリング・システム運動器具の設備をして欲しい。若し此の規定の實施前に建設せられたる學校、又は特別理由の下に此種の體操場を建設し能はざりし場合に於いては、屋外に於いて此等の要求を十分満たし得るだけの設備をなさねばならぬ。此の體操場は、成るべく校舎に接近して建設され、廣さは少くとも六百二十五平方米以上を有し、表面は地面上まで低下され、排水設備に注意し、地上には數吋高さの篩ひたる砂が敷かれねばならぬ。永久的に使用すべき各種の道具は地面上に固定され、又露天に曝す事の出來ぬ部分は、此の目的の爲めに建てられたる物置の内に保存する事になつて居る。

(二)校舎の衛生に關する規則 教室掃除法に關する規則は、極めて凱切にして、暗示に富んで居るから、茲には稍々詳細に涉つて述べてみよう。

一、床板は堅牢にして隙間なく張りつめられ、よく磨きあげられて、塗られなけ

ればならぬ。或はリノリウムを敷きつめるか、又は何なりと濕氣を十分に保護するやうな設備が必要である。

二、教室は十分換氣法に注意して、授業開始前及び全休憩時間は開放せねばならぬ。

三、凡ての校具は濕布にて拂拭され、窓硝子は少くとも一週一度は磨かねばならぬ。

四、床は毎日よく掃除し、且つ一週一度は石鹼及び微温湯にて磨きあげねばならぬ。

五、便所は絶對的に清潔であつて、其の排泄物は屢々吸み取られ、尿器は毎日洗滌せねばならぬ。

六、天候險惡なる場合の外は休憩時間と雖も教室又は廊下等に留まつて居る事を許さなす。



七、是等の規則に従つて強制される臨時費は地方が之を負擔せねばならぬ。

而して此規則が實行されて居るか否かを監督するのは、學校教師及び地方學務委員の義務である。元來丁抹の教師は最小農村學校と雖も教室掃除の實際の作業は全然手を觸れぬ事になつて居り、此等作業は其目的の爲に使役される小使の勤めとなつて居る。而して小使の多くは女子が其の任に當つて居る。但し丁抹本土の西部にて人口稀薄なる荒蕪地に於ては教師自身掃除をなしつゝ、ある處も少くない。然し何れの場合に於ても其れ等の勞力に對しては相當の賃銀を支拂ふ事になつて居る。

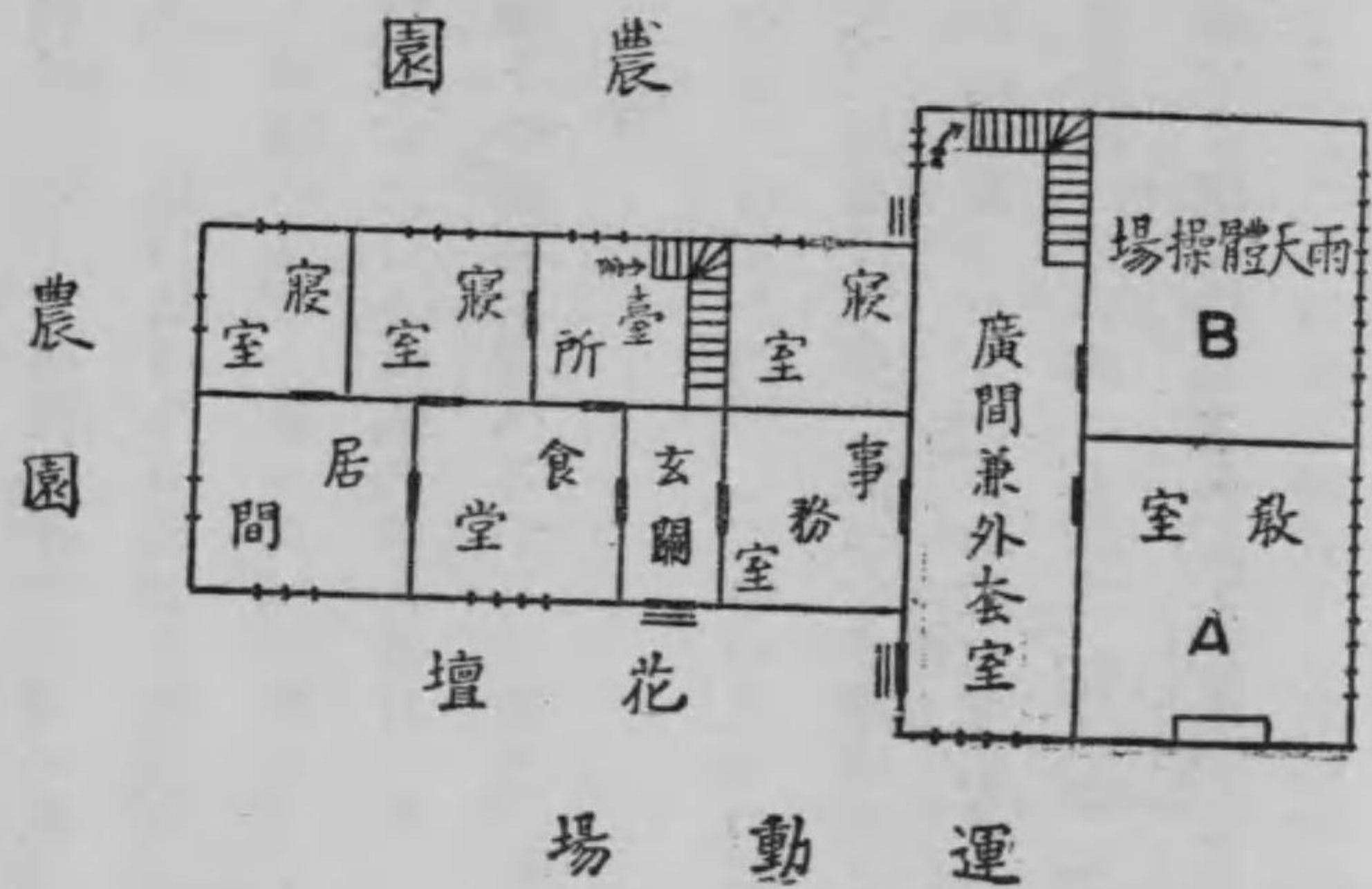
(三)校舎設計の數例 丁抹の農村學校は堅牢にして且つ建築學的見地より見るも人の注意を喚起するやうな趣味多き建築になつて居る。事實上凡ての新建築は輓近に於ける衛生設備が完成せられて居る。建築材料は普通煉瓦又は鐵筋コンクリートにて、屋根は普通瓦又はスレートが用ゐられる。中には往々草葺の單級學校もあれど、漸次其影を失ひつゝある、是れ全國民を通じて肺結核の恐ろしき蔓延が遂に衛生的建築設備の

必要を強く高調するやうになつたのである。今や政府は非衛生的なる舊式建築を改築する誘引に費用の一部を補助して居る。此の傾向は更に進んで校舎の輓近化の爲めには州の補助を與へるまでに進んで居る。

(第一案)

此の計畫はホールフロイ、ランゾグン學校の設計である。校舎は一千九百年に三萬クローナーの費用で建設されたもので、三教室と三教師の住宅設備を兼ねたものである。即ち上級生はAとBとの教室を有し、Eの大廣間に通じて居る。下級生はC室を有し、Dの廣間をもつて居る。女教師はD室の階段によりて頭上の四専用室に入る事が出来る。校長は階下の殘室を全部専用し、第二の教師(未婚の男教師)は校長の二階の四室を専有して居る。Wは男女の便所及び燃料室にして、本建築の右方稍々後部に設けらる。雨天體操場は左方の適當なる位置に設けられ、該地方に於ける社交中心の室として利用せられて居る。即ち日中は兒童の運動場として使用さ



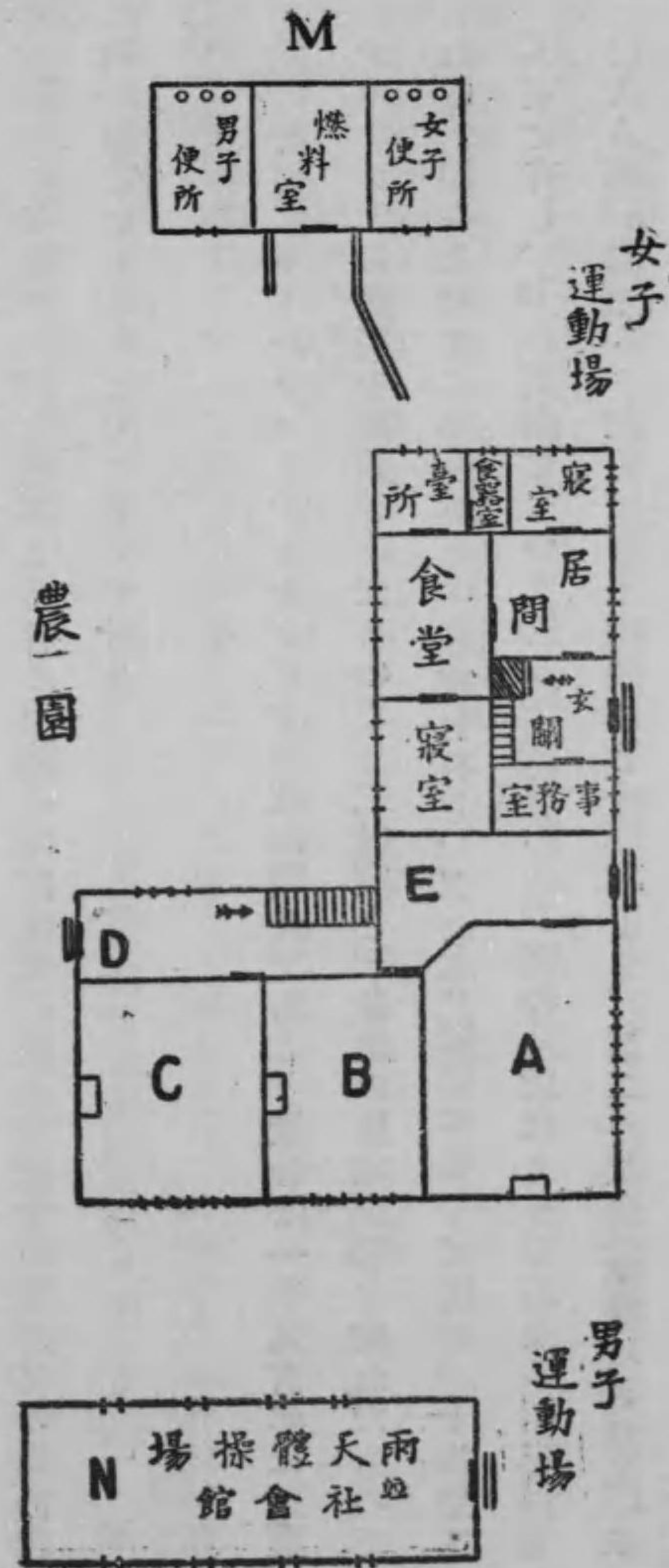


運動場

(第二案)

れ一週間の或夕刻は同地方の體育俱樂部として使用される。其他此の建築は學校の擴張的課程及び諸種の社交的會合に使用される。校庭は頗る大きなもので適當なる植込があり、周圍は丈夫な生垣又は柵の類にて區劃されてある。

茲に示すものは一教室だけの小さい單級學校である。教室Aは普通の建築法の考案とは異なり、主要室は西方に向いて居る。是れ丁抹は日光の輝くこと稀にして一年中の九割は雲霧に閉鎖されて居るからである。



女子運動場

裝飾花壇

男子運動場